長崎県文化財調査報告書 第155集

長崎県埋蔵文化財調査年報７

〔平成10年度調査分〕

２０００

長 崎 県 教 育 委 員 会

はじめに

長崎県教育委員会では，県下で行われた発掘調査のなかで，前年度に県が中心となって調査を行った遺跡の概要を，平成５年から年報として刊行しております。平成10年度も多くの発掘調査が行われ，大きな成果をあげることができました。

これらの発掘調査は増加する種々の開発に伴うものが多く，各開発部局との協議の結果，計画変更・工事面積の縮小といった遺跡保護・保存の努力もいたしております。また，近年各地で遺跡整備の動きが盛んになり，整備のための発掘調査も実施しております。

本年報は，平成10年度に実施した発掘調査の概要を紹介するものです。今後とも，埋蔵文化財の保護・保存への御理解をお願いいたしますとともに，本書がそのための一助になれば幸いです。

最後になりましたが，本書刊行に際して御協力をいただいた関係各位に厚く御礼申し上げ，御挨拶といたします。

平成12年３月

長崎県教育委員会教育長　木　村　道　夫

例　　言

1. 本書は，長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と，長崎県教育委員会が平成10年４月１日から平成11年３月31日までに実施した25箇所の発掘調査の概要を収録したものである。
2. 本書に掲載した遺跡には，県教育委員会が主体となって発掘調査したもの，市町村事業に伴い調査対応したもの，市町村教育委員会による発掘調査を支援したものを含む。
3. 平成７年度分より壱岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については調査事務所の調査年報に概要を収録することになっている。
4. 各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については，各々の文末に記した。
5. 本書の編集は，県教育委員会文化課文化財保護主事 山口浩司 が行った。

本 文 目 次

はじめに

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状 …… 1

二　県の事業について …… 1

三　県内の研究活動について …… 5

四　調査の動向 …… 6

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 …… 13

六　平成５年度から平成10年度の発掘届等件数・県市町村別職員数 …… 16

Ⅱ　各遺跡の調査概要

平成10年度長崎県内発掘調査箇所市町村別位置図 …… 17

①豊大畑遺跡（上対馬町）… 18
②クワバル古墳（豊玉町）… 19
③金石城跡（厳原町）…… 20・21
④金田城跡（美津島町）…… 22
⑤妙泉寺古墳群（芦辺町）… 23
⑥城岳城跡（奈留町）…… 24
⑦曲坂遺跡（福江市）…… 24
⑧石田城跡（福江市）…… 25
⑨石田城跡（福江市）…… 26
⑩長畑馬場遺跡（大島村）… 27
⑪平野遺跡（福島町）…… 28
⑫根引池遺跡（江迎町）…… 29
⑬緑ヶ丘遺跡（平戸市）…… 30
⑭獅子第3遺跡（平戸市）… 31
⑮釜敷山遺跡（西海町）…… 31
⑯清水遺跡（大瀬戸町）…… 32
⑰遠竹遺跡（小長井町）…… 33
⑱西原遺跡（瑞穂町）…… 34
⑲大野原遺跡（有明町）…… 35
⑳景華園遺跡（島原市）…… 36
㉑稗田原遺跡（島原市）…… 37
㉒蒲河遺跡（有家町）…… 38
㉓日野江城跡(北有馬町)… 38・39
㉔峰城跡（南串山町）…… 40
㉕妙見床遺跡（南串山町）…… 41

Ⅲ　平成10年度長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表 …… 42

Ⅳ　平成10年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）…… 46

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状

長崎県における平成10年度の埋蔵文化財行政については，人的・財政的に前年度に比較して大きな変化は認められない。

平成10年度における発掘調査の原因別届出件数は97件となっている。この中には市町村が事業主体となって実施している国指定史跡の整備関係調査は含まれていない。

事業別にみると住宅・その他の建物・宅地造成と農業基盤整備関係事業が圧倒的に多く，道路関係事業がこれに次いでいる。これら三種の開発関係事業で，全体の約3/4の割合を占めている。

一方，県内における埋蔵文化財関係職員数についてみると，県では県文化課に15名（内嘱託５名），原の辻遺跡調査事務所６名の計21名となっている。また，県内の市町村には８市20町に44名（内嘱託11名）が配置されている。県内79市町村のうちの28市町村であり，県全体の1/3ほどの市町村しか埋蔵文化財関係の職員がいない状況を示している。

二　県事業について

1　埋蔵文化財緊急調査（表１）

県内での周知の埋蔵文化財包蔵地における開発事業等による発掘調査届出件数は86件であった。届出の件数としては昨年に比較して若干減少している。

以上のうちで範囲確認調査を実施したのは47件で，残りが工事立会と慎重工事となっている。さらに，範囲確認調査の結果，工事との兼ね合いからも本調査を実施したのは28件であった。それらの主な遺跡については，本年報に記載している。

表１　平成10年度
開発事業別発掘届出件数

	区分	件数
緊急調査	道路	16
	河川	1
	港湾	1
	ダム	1
	学校建設	5
	住宅	4
	個人住宅	5
	工場	1
	その他建物	11
	住宅造成	6
	公園造成	4
	ガス等	2
	農業基盤整備	20
	その他開発	9
計		86

2　埋蔵文化財普及啓発活動の推進

・基礎研修Ⅰ

基礎研修Ⅰは，県・市町村の開発担当部局の関係職員に対して，文化財保護法の解説および開発と遺跡の取扱いについての説明を行った。さらに，それぞれについての調整や協議の実際について，また，文化財の保護・保存・活用についての協力の依頼なども実施している。

研修の内容は　1）埋蔵文化財に関する諸手続き

2）文化財保護法の沿革と概要

3）埋蔵文化財の保護と開発事業との調整

4）周知の埋蔵文化財包蔵地において土木工事を行なう場合の手続き

5）土木工事中において新たに遺跡を発見した場合等の手続き，などである。

平成10年度は5月18日～21日，5月27・28日に県内の各教育事務所管内6地区で実施し，県・市町村担当部局職員のほか各市町村教育委員会職員延べ170数名の参加があった。

・基礎研修Ⅱ

基礎研修Ⅱは，県内各市町村教育委員会の埋蔵文化財担当職員・市町村文化財保護審議員・県文化財保護指導委員を対象に，『報告書作成の流れ』（割付の方法等）について，11月19・20日，文化課立山分室で実施した。実際に報告書の作成に携わっている人だけに関心が限られたようで，参加者は11名であった。

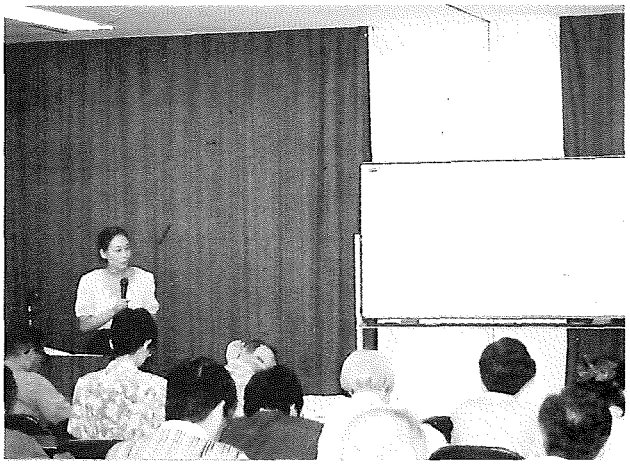
・専門研修

埋蔵文化財の発掘調査に関係する基礎的な研修で，対象としては各市町村の担当職員のほか一般や教職員からの参加もあった。平成10年度の研修の内容は以下のとおりである。

日程：8月18日～20日

場所：長崎市勤労福祉会館

内容：『土器から見た日韓交渉』と題して，福岡大学の武末純一先生により18・19日に，19日から20日にかけては『抜歯と装身』と題して，熊本大学の木下尚子先生によって実施された。



上：技術研修　下：専門研修講義

概要：武末先生の講演は，朝鮮半島での刻目突帯文土器・丹塗磨研土器・無文土器と弥生土器について，その後出現する楽浪土器と三国土器，瓦質土器から陶質土器への変遷・伽耶土器・新羅土器百済土器についてと5世紀の日本への伝播と拡散，須恵器の始まりについてなどである。

次いで，19日の午後から20日の午前中にかけて，熊本大学の木下尚子先生は「身体にかかわる古代の習俗を通して，東アジアと日本列島の関係，縄文時代と弥生時代の関係」をとらえてみることをテーマに述べられた。風習的抜歯の系譜として，東アジアの中での日本の抜歯についてなどの話があった。

次いで，縄文・弥生時代の装身の系譜としてアクセサリー着装の特徴について，南島産貝輪を中心に話され，さらに，翡翠・碧玉・ガラス製の装身具類についての話もあり，興味をもった多くの人々が熱心に受講され，好評のうちに閉講した。

・長崎県市町村文化財担当者会議

埋蔵文化財に関する基礎・専門研修のほかに，文化財に関しての事務連絡・各種協議を中心に行う会議として，９月18日（金）に長崎県庁新別館で実施した。今年度は，①文化財保護法第98条の２第１項の取扱いについて　②市町村における公共工事と埋蔵文化財に係る連絡調整会議について　③指定文化財の管理についてなどの事務連絡と，近年来九州地区の埋蔵文化財担当部局で協議を実施中の，出土遺物の取扱いについての中間報告とその説明を行った。

・公共工事と埋蔵文化財保護にかかる連絡調整会議

県文化課では，公共工事にかかわる埋蔵文化財の適切な取扱いを行なうため，県関係の公共工事担当部局との定期的な連絡・調整の場を設けることとし，平成９年度から実施している。

平成10年度は，平成11年２月19日（金），長崎市の県庁新別館で行い，

埋蔵文化財の保護について，文化財保護法，遺跡地図等の説明

埋蔵文化財発掘調査の円滑化について，文化庁通知等の説明

発掘調査の期間・費用の算出について，九州地区調査基準の説明

などと長崎県の主な遺跡と史跡整備について，「原の辻遺跡」「金田城跡」「原城跡」などの現状と整備状況についての説明を行った。

最後に，事業計画の照会と質疑などを行い，平成10年度の会議を終了した。

３　ふるさと古代遺産保存継承事業

①主要遺跡内容確認調査

長崎県内では約3,700箇所あまりが埋蔵文化財の包蔵地として周知されているが，必ずしもその内容が十分に把握されていない面がある。そのため，本県の特質をよく伝えていると考えられる遺跡のうちから，地域性や開発などに伴う緊急度を考慮し，内容確認のための調査を継続的に実施している。

平成10年度は，島原半島の景華園遺跡と壱岐の妙泉寺古墳群の調査を実施した。景華園遺跡は江戸時代から知られている遺跡で，巨大な石材を使用した支石墓と，そこから出土した青銅製の銅剣などの遺物で知られている。妙泉寺古墳群は壱岐島の中央部に位置する古墳群であるが，特異な石室をもつ古墳があるということのほかにはあまり知られていなかった。このため石室の図化を主な目的とした調査を行った。調査の状況については，本年度刊行の『主要遺跡内容確認調査報告書』に詳しい。

②タイムスリップたんけん隊

郷土の遺跡に直接触れることにより，郷土の歴史により親しんでもらおうという目的の，親子で参加する体験事業である。平成10年度は以下の遺跡で実施した。

・平戸和蘭商館跡（平戸市）8月8日（土）
　平戸市にある，江戸時代初期のオランダ商館の発掘調査現場での発掘調査体験

・出島商館跡（長崎市）10月24日（土）
　長崎市の出島オランダ商館の発掘調査現場での発掘調査体験

・風観岳支石墓群（諫早市）11月14日（土）
　諫早市と大村市の境界付近の，縄文時代晩期の支石墓の発掘調査体験

タイムスリップたんけん隊（出島商館跡）

各遺跡では発掘調査担当者による遺跡の概要説明・発掘調査の話や注意のあと発掘調査にかかり，午後は出土した遺物についての説明などがあった。

4　原の辻遺跡保存整備事業及び保存活用事業

平成10年度の原の辻遺跡に関する事業としては管理運営・保存活用事業と発掘調査事業に大別される。

①　原の辻遺跡展示館の管理運営

・事業内容としては原の辻遺跡展示館の管理と運営が主なものである。

②保存・活用事業として，以下の事業がある。

・調査指導委員会の開催

年に2回をめどに開催される委員会で，指導委員として佐原眞：国立歴史民俗博物館長，工楽善通：奈良国立文化財研究所，小田富士雄：福岡大学教授，西谷正：九州大学教授，宮本長二郎：東京国立文化財研究所，日野尚志：佐賀大学教授，澤田正昭：奈良国立文化財研究所，松井章：奈良国立文化財研究所，の8名から構成されている。原の辻遺跡の調査のほか以下の点などについての指導も行われる。

・出土遺物の保存処理や複製
・展示用遺物・模型の製作
・出土品の保存・活用施設の建設
・シンポジウムの計画と開催

平成10年度の原の辻遺跡シンポジウムは，福岡市の都久志会館で１月24日に行なった。タイトルは「一支国と魏志倭人伝の国々」～弥生の使者たちが今ここに集う～とし，関連遺跡の概要報告・基調講演とともに実施し，同時に原の辻遺跡のパネル展示も行った。関連遺跡の概要報告は，

伊都国 …… 柳田　康雄（福岡県教育委員会）
奴　国 …… 吉留　秀敏（福岡市教育委員会）
奈良盆地 …… 寺沢　薫（奈良県立橿原考古学研究所）
対馬国・一志国 …… 宮崎　貴夫（原の辻遺跡調査事務所）

によって行われた。

「一支国と魏志倭人伝の国々」シンポジウム（福岡市）

基調講演は「魏志倭人伝の時代」と題して，国立歴史民俗博物館の春成秀爾氏によって行われ，西谷正・九州大学教授，木下尚子・熊本大学教授を加えてのシンポジウムとともに，会場は満員の盛況であった。

③　発掘調査事業

国庫補助事業による発掘調査が継続して実施されている。内容については，後述する。

（県文化課　藤田和裕）

三　県内の研究活動について

長崎県考古学会総会　1998. 6. 27　於：長崎大学

松本慎二「原城遺跡発掘調査報告」
諫見富士郎「南高来郡有明町大野原遺跡調査概況」
宮下雅史「長崎市磨屋町遺跡発掘調査報告」
杉原敦史「平成９年度原ノ辻遺跡不條地区の調査」
木村岳士「日野江城発掘調査報告」
川道　寛「長戸鬼塚古墳発掘調査報告」
古門雅高「金田城発掘調査報告」

シンポジュウム　『原城発掘』～西海の王土から殉教の舞台へ～1998. 10. 17・18　於：南有馬勤労体育センター

17日　木村岳士「日野江城発掘調査概要」
千田嘉博「城郭史上の原城跡」
宮武正登「検出遺構（主に石垣）から見た原城跡」
松本慎二「原城遺跡発掘調査概要」
前川　要「土器・陶磁器から見た原城跡」

18日　外山幹夫「戦国大名有馬氏と原城」

結城了悟「原城の乱と原城－島原の乱の意味－」

服部英雄「原城と有明海－原城と島原の乱を見直す－」

伊藤正義「原城の終焉の実態－破壊の作法－」　　田中哲雄「中近世城館の整備」

シンポジュウム　『原城跡の過去と未来をつなぐ』

コーディネーター　服部英雄　ゲスト　島田陽子　パネラー　松尾義博・田中哲雄・志岐茂夫

九州土器研究会　1998. 11. 14・15　テーマ「肥前西部の食器相－長崎県域の土器・石鍋－」

14日　西彼町の下茅場遺跡の石鍋製作跡　－ 大瀬戸町のホゲット石鍋製作所跡 －　大瀬戸町立歴史民俗資料館を見学

15日　東彼杵町立歴史民俗資料館

福田一志「五島列島の中世土器」　　高原　愛「松浦市周辺」

川口洋平「壱岐の中世土器」　　荒木伸也「石鍋製作所跡の調査」

川口洋平「東彼杵周辺と島原半島」　　古門雅高「対馬の中世土器」

長崎県考古学会秋季大会　1998. 11. 21　於：鹿町町文化会館

七田忠昭「佐賀平野における弥生時代の拠点集落」

県内拠点集落遺跡の事例発表

古門雅高「長崎県の弥生時代の拠点集落」　　馬場聖美「里田原遺跡」

安部憲毅「富の原遺跡」　　白石純悟「車出遺跡」

辻田直人「長崎県南高来郡佃遺跡の調査」

四　調査の動向

【旧石器時代】

壱岐島の南端に近い郷ノ浦町の大宝遺跡が，圃場整備に伴ない，７月から９月にかけて県教委により624㎡が発掘調査された。遺跡は標高53～55ｍの河岸段丘上に立地している。古代から中世の包含層の下層に旧石器時代の包含層が確認された。その内容は，ナイフ形石器，台形石器，スクレイパー，コア・スクレイパー，使用跡のある剥片，打面再生剥片，剥片等があり，炭化物も出土している。

【縄文時代】

西彼杵郡大瀬戸町の清水遺跡が，町の診療所建設に伴ない１月から３月にかけて町教委により535㎡が発掘調査された。土層は７層が確認され，６層が縄文中期から後期の包含層。７層が縄文前期の包含層であった。遺構は検出されなかった。遺物は石錘，土器，石器，加工痕の残る木材のほか，獣骨，

貝，木片などが出土した。特筆すべきは石錘の量で，6層から170点，7層からは120点程出土している。

南高来郡有明町の総合福祉センターの建設に伴ない標高20m前後の扇状地に立地している大野原遺跡が，12月から翌年3月にかけて町教委により1,200㎡調査された。遺構は第3層から縄文後期の埋葬，溝状遺構，ピットなどを検出した。遺物は西平式土器，三万田式土器，十字形石器，石鏃などが出土し，その総数は15,000点を数える。

【弥生時代】

島原市の景華園遺跡が，県教委により7月から9月にかけて県の主要遺跡範囲確認調査として行われた。同遺跡は島原藩の記録「深溝世紀」の元禄2年（1699）に大石の下から銅剣2本が出土したと記されている。戦後の採土工事や小規模な調査により甕棺が検出されている。主な遺物は中細形銅鉾，布片，管玉，鉄鋤先，銅剣などがある。調査の結果，遺跡が立地する丘陵の大半が削平され，すでにほとんどが破壊されていることが判明した。

壱岐島南西部の郷ノ浦町の山中遺跡が工場建設に伴ない町教委により9月から10月にかけて40㎡が発掘調査された。遺跡は幡鉾川の源流に近い標高31～34mの丘陵部に立地している。発掘により甕棺墓2基，箱式石棺墓1基，集石，「L」字状石組遺構などが検出された。遺跡の状況としては，墓域の主体部が削平を受けているが，群集墓として集中していたと考えられている。甕棺は，弥生後期後葉の甕や壺を横に三つ継ぎ合わせた形の三重棺があり，三重棺の中甕はタタキをもつ壺型土器で，朝鮮半島系土器の特徴を備え注目されている。ほかに古墳時代初頭の西新式土器の破片も出土している。遺物は，箱式石棺から鉄剣と勾玉，集石墓と推測される遺構から鉄刀が出土しており副葬品と考えられる。

北松浦郡大島村の長畑馬場遺跡が，圃場整備のため9月から10月にかけて県教委により1,400㎡が発掘調査された。検出された遺構は，方形プランの竪穴式住居跡で，1辺3m程の規模である。このほか甕棺10基，小児甕棺4基，1辺2mの隅丸方形の土壙，ピット群などがある。遺物はピット内から須玖式土器など，弥生中期の遺物が出土した。また1号甕棺から管玉，2号甕棺から小玉，7号甕棺から釧，8号甕棺から人骨がそれぞれ出土した。ほかに土壙内からは獣骨が出土した。

壱岐島の芦辺町と石田町にまたがる原の辻遺跡では，平成8年度に遺跡の中心である丘陵部の西側において船着き場跡が発見された。この船着き場跡は，丘陵部の北側を流れる幡鉾川の旧河道から離れた位置で検出されたために，この間のつながりを探るために10月から翌年2月にかけて，県教委が950㎡の調査を実施した。調査の結果，やはり双方をつなぐような形で旧河道が確認された。弥生時代中期前葉の遺構としては，旧河道（中期後葉ころまで）とその東側の丘陵部に近い旧河道（後期まで）のほか，土壙や，小児甕棺が検出されている。この二つの旧河道と幡鉾川旧河道に囲まれたこの地区は微高地であったと推測され，前の時期に比べて遺構の数も増加し，居住域として定着，発展したことも推測されている。この地区内の土壙から前漢時代の三翼鏃が出土し，濠の中からは同じく前

漢時代の五銖銭も出土している。そして，この時期には船着き場も築造されていたと考えられている。弥生時代中期後葉の遺構としては，濠1条と溝4条，土壙20基が確認されている。この時期の濠は1条であるが，旧河道2条が自然の濠的な役割を果たしていたと考えられている。4条の溝は，この地区の発展による集住，過密化などに伴なう何らかの意味を持つ区画と考えられている。弥生時代後期の遺構では，5条の濠が確認され，それ以外の生活に関連すると思われる土壙や溝などはほとんど検出されていない。この時期にはこの地区においては居住されなくなり，台地上に移転したと考えられている。なお，5条の濠については，従来，遺跡中央の台地を多重環濠的に囲むと考えられてきたが，調査前の予想に反した様相を呈することが判明した。5条の濠は接することなく交錯し，複雑に中継しあい，後世の域郭の「虎口」的な意味をもつ防御的配慮かとも考えられている。注目される遺物として，活発な大陸や朝鮮半島との交渉を物語る前漢時代の五銖銭と三翼鏃，朝鮮系無文土器，楽浪系土器，牛角把手付き朝鮮系無文土器などがある。

弥生時代の木製品が多量に出土したことで知られている北松浦郡田平町の里田原遺跡で，圃場整備事業に伴ない町教委が8月から翌年3月にかけて調査した。そして，昭和47年の発見から現在に至る40次に及ぶ調査において初めて弥生時代の住居跡と甕棺墓が発見された。住居跡は遺跡の東部，西にわずかに突き出た中位の平坦面に見つかった。排水路予定地ということで幅4mであけた調査壙のため，また後世の水田開発による削平のため良好な遺存状態ではなかったが，竪穴住居跡が1棟確認された。プランは円形で径約4m。遺物は，方柱状片刃石斧や砥石，磨石などが出土している。住居跡の時期は弥生時代中期前半から中頃と推定されている。この住居跡から南へ約100m程に独立丘状に神社が残されている。この東側で甕棺，箱式石棺，石蓋木棺墓の混在する弥生の墓地が確認された。甕棺の破片は今までいくつか出土していたが，遺構として確認されたのは初めてで，弥生時代後期初頭のものである。里田原遺跡はこれまで平地の南西部に遺物の出土が集中していたが，東側にも広がることが確認され，時代についてもこれまで空白であった弥生時代後期の遺構が出土して，少しずつその姿を現しつつある。

【古墳時代】

南高来郡国見町の佃遺跡が，圃場整備事業に伴ない4月から7月にかけて町教委が約3,000㎡を調査した。遺跡は，雲仙からのびる丘陵先端部とその下に広がる平野部で標高15～30mに位置する。遺跡は弥生時代中期から中世の複合遺跡で甕棺，住居跡，石棺墓，溝，掘立柱建物跡，木製品水漬遺構などが検出されている。今回の調査で特筆すべき遺構として，遺跡北端の平野部で地下約50cmに大型掘立柱建物跡が検出された。建物の規模は1間（梁）×2間（桁行）で，桁行9.0m，梁間4.72mと非常に大規模であった。柱穴は直径約1.3m，深さ約1mで内から古墳時代初頭（4世紀中頃）の土器が出土し，建物の時期もこの頃と推定されている。ほかに掘立柱建物跡から東南約10m地点の地下30cmに3棟の竪穴式住居跡も検出された。プランは円形で，規模は6～10mである。竪穴式住居跡から古墳時代初頭の遺物が出土しており，大型掘立柱建物跡と同時期に存在したと考えられる。通常古

墳時代になると竪穴住居のプランは円形から方形へと変化するが，この地域では古い形式を残していると推測されている。

下県郡豊玉町のクワバル古墳が，町道拡幅工事に伴ない5月に町教委により70m²が発掘調査された。2基の箱式石棺を調査したが，昭和23年ごろ盗掘を受けたらしく遺物は出土しなかった。しかし周辺の表土層から副葬品と推測される5世紀前半の陶質土器と硬玉製勾玉1点，鉄剣片，鉄斧などが出土した。

壱岐郡芦辺町に所在する妙泉寺古墳群の墳丘測量および清掃調査を，8月から9月にかけて県教委が実施した。調査は県の主要遺跡内容確認調査事業として行なわれた。1～5号墳のうち消失した4号墳を除く4基を調査対象とした。遺物としては，1号墳の羨道部の清掃中に金銅製の辻金具・耳環および多数の鉄片のほか須恵器の大型器台片が出土した。古墳の築造年代は1号墳が6世紀の前半頃，3号墳が6世紀の後半頃と推定されたが，2，5号墳については不明である。

【古　代】

島原市稗田原遺跡が，道路拡幅工事に伴ない県教委により5月から7月にかけて1,400m²が発掘調査された。遺跡は，礫石原山麓地の末端南方で西川と中尾川により開析された標高27～30mの沖積低地上に立地している。土層はⅠ～Ⅹ層あり，Ⅴ～Ⅳ層が土石流堆積層で，遺物を包含している。遺構は，古代の土石流路（旧河道），中世の竪穴群や土壙，そして近世の土壙などが検出され，中世が主体となっている。遺物は，量的には古代が主体で，ついで中世が多く，旧石器時代と縄文時代は少ない。古代の遺物として，島原半島初出土となった9世紀前半の中国越州窯系青磁碗，7世紀後半の須恵器と主体を占める8世紀後半頃の土師器，12世紀前後の黒色土器や瓦器碗などが旧河道内から出土している。当地は平成3年に普賢岳の噴火に伴なう災害をこうむったが，過去にも今回の調査によって約4,000年前に比定されている六ツ木火砕流と8～9世紀の古代に発生したと考えられる土石流が確認された。この後，明暦3年（1657）〔異説では寛文3年（1633）〕と寛政4年（1792）の2回が史料から知られている。

『日本書紀』の天智6年（667）に築かれたと記されている，下県郡美津島町の国特別史跡である金田城の第6次保存整備事業に伴う調査が県教委によって9月から11月にかけて行われた。今回の調査は，昨年，通称ビングシ山とよばれる地域に確認された土塁が，二重構造になっていることが確認されたが，それが時間差をもつものか，土塁構築のための工程差なのかを確認するために実施した。その結果，時間差を持って構築された土塁であることが判明した。また，一ノ城戸，二ノ城戸の調査も併せて実施した。その結果，それぞれの城戸は，旧地形の谷を版築によって埋め立てて構築していたことが判明し，7世紀後半の須恵器が少量出土した。

【中　世】

長崎市矢上城跡が，団地造成工事に伴ない5月から9月にかけて市遺跡調査会によって調査された。

城跡は標高80m前後の小丘陵上に構築されている。5,200㎡の調査で，3つの曲輪とこれに附属する防備施設が明らかになった。城の規模は東西200m，南北100m，想定される居館との比高80m，尾根続きの赤松城までを範囲とすれば東西600m，南北300mを計る。この形態は，肥前西部に多い麓に居館を作った平山城の典型である。築造時期は史料によると観応3年（1352）に矢上城の名が見出される。そして，廃城時期は矢上氏が15世紀中期の文明年間（1469～86）に西郷氏によって被官の道を歩むことになった時に廃城したと推測される。この年代は，出土遺物から見てもほぼ妥当だと考えられる。遺物のうち中世陶磁器の碗や皿など食膳具は，いずれも中国からの舶載品である。青磁や白磁が主体であるが，鉄釉天目茶碗も少量出土している。壺などの貯蔵用具は中国産の施釉陶器と国産の焼締陶器や炉器が混在し，国産品は，備前系と九州系に大別される。土器はすべて在地産と推定される皿（かわらけ）や鉢，火鉢や擂鉢，土錘などが出土している。

下県郡美津島町の水崎遺跡が林道拡幅工事に伴ない，11月に県教委により32㎡が調査された。遺跡は美津島町の西部，外浅茅にのぞみ西は朝鮮半島に面する浅茅湾の入り口に位置する。奥深い浅茅湾の開口部に当たることから，中世より海外交通の根拠地として機能していたものと考えられる。遺跡は標高5.5m程の畑地にある。一年を通じて北西風の風がやむことはなく作物はあまり育たない。調査区土層は5層に分けられ，3層から遺構，遺物が出土している。遺構はピットや焼土が検出された。ピットは素堀りのままと，底に敷石を据えたものがあった。ピット内から炭化物が出土し，出土礫も被熱していることから，火災などにあった可能性が高い。出土の陶磁器の特徴として，

1. 輸入陶磁器が主体を占め，その中でも朝鮮王朝陶磁器の占める割合が多い。
2. 全体に占める東南アジア産陶器の出土比率がほかの遺跡に比べ高い。
3. 土師器の出土が皆無である。
4. 国産陶器は出土割合が極端に少ないが，その中でも備前の擂鉢や在地系の擂鉢が主体を占める。

の，4点が上げられている。さらに，特筆すべきこととしてベトナム産の陶磁器が多量出土している。

本遺跡については，1471年，申淑舟による『海東諸国紀』に「仮宿」という地名で記されていることからも，本来の居住区域から離れた地区であったと推測されている。また，『海東諸国紀』によると14世紀後半～15世紀前半の頃には，早田氏が島主宗氏をもしのぐ勢力を持っていたと記されている。水崎遺跡を含む尾崎地区は，1419年の応永の外寇のおりに，倭寇の拠点として最初に朝鮮軍の襲撃にあい，家や船が焼き尽くされたことも史料から知られており，本遺跡の3層中やピット内に炭化物焼土が充填していることは，このことと関連するものと考えられている。

【近　世】

東彼杵郡波佐見町の皿山登本窯跡が町教委により，重要遺跡の確認調査として92㎡が調査された。窯跡は，標高56.0～75.5mで，畑地や宅地となっている。上位から9段目までが畑地であり，各所に残存奥壁と側壁が露出している。窯室は3室分検出した。一部屋平均幅8m程，奥行4m程である。床面からは，明治期～昭和期に相当する磁器片，棚板などの窯道具が出土している。物原の発掘で19

層を確認したが，それ以下は崩落の危険があり末調査である。19層は18世紀中葉，18～3層は18世紀後半～19世紀初頭と考えられ，特に筒形碗，蓋付碗，広東碗などの消長と機種構成の変換を把握することができた。2～1層は後世の撹乱，削平を受けていた。物原の調査結果から開窯時期は特定できないものの，18世紀中葉には操業を開始していたことが確認された。また，廃窯時期は聞き取り調査によって，昭和初頭の大不況により昭和5年であることが判明した。窯体の全長は最盛期には112mで，全窯室数は28室であったと推定されている。今回の調査から，本窯跡は少なくとも18世紀中葉には操業を開始しており，18世紀後半に最盛期を迎え，19世紀前半に規模を縮小し，最終的には昭和5年に廃窯したという時間的推移が想定できた。そして，本窯跡の規模や18世紀後半を中心とした染付碗の変遷を確認することができた。

佐世保市八幡町の長葉山窯跡が重要遺跡の確認調査として，市教委により昨年の1号窯の調査に継続して，10月に2号窯と1，2号窯の物原及び熱残留磁気測定の資料調査が行なわれた。調査面積は，200㎡である。2号窯は標高41～48mの斜面を斜めスロープに造成して構築されている。窯体は現存長34m，11室，窯室は最大長3.1m，最大幅3.4mと推定されている。操業年代は1号窯が1630年以降1600年代頃。2号窯は1号窯の閉窯直後に稼動を始め，1700年頃に閉窯したと考えられている。2号窯の製品はベトナムほか，東南アジアに広く輸出された白磁雲龍文碗が焼かれていたが，1680年頃には終わっている。砂床面には17世紀後半～18世紀前半に全国的に分布が見られる緑釉蛇目釉剥ぎ皿がある。また，1号物原の5層から白磁山水文碗と草花文皿，陶器の碗と皿が出土。4層から陶器と磁器の日宇鳳凰文皿，3～1層は炊き口作業用の整地層である。2号物原の3層から大振り碗の白磁草花文，山水文，鳳凰見込み荒磯文，雲龍見込み団龍文，寿字文，簡略化された雲龍見込み荒磯文があり，小振り碗は網文，簡略化された山水文が出土している。窯道具はハマ，サヤが使用されチャツほかの道具は見られない。地磁気の年代は，1号窯はAD1605±10，2号窯はAD1650±25という値が出ている。

福江市福江町の石田城内にある県立五島高校の改築工事に伴なって，県教委が11月から12月にかけて650㎡調査した。石田城は福江港から南西へ約400mの標高5～10mにあり，三方を海に囲まれた海城であった。城の築城は嘉永2年（1849）第30代盛政に始まり，文久3年（1863）第31代盛徳の時に完成している。王政復古の4年前のことであった。調査は現存する内堀の石垣に沿って，内堀の石垣の検出を行なったところ，地下約1mに石垣が出土した。しかし，旧体育館やプール等の建造物で損壊をうけていた。石垣のほとんどの石は加工を施しておらず，海岸などから運んできたものをそのまま利明している。堀底は本丸から石垣にかけて1段の段差が付けられ，その段差は約20cm地山面を掘り下げていることを確認した。遺物は，近世の陶磁器，瓦などが出土した。

（長崎市教育委員会　シーボルト記念館　永松　実）

〔文　献〕

村川逸朗・西信男編　『大宝遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告第14集　長崎県教育委員会

白石純悟編　『山中遺跡』郷ノ浦町文化財調査報告書第１集　郷ノ浦町教育委員会

村川逸朗・西信男編　『原の辻遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告第15集　長崎県教育委員会

藤田和裕編　『クワバル古墳』豊玉町文化財調査報告書第６集　豊玉町教育委員会

福田一志編　『県内主要遺跡内容確認調査報告書　Ⅱ』長崎県文化財調査報告書第151集
長崎県教育委員会

川口洋平・宇土靖之編　『稗田原遺跡　Ⅲ』長崎県文化財調査報告書第152集　長崎県教育委員会

福田一志編　『水崎遺跡』美津島町文化財調査報告書第８集　美津島町教育委員会

久村貞男編　『長葉山窯跡発掘調査報告書』　佐世保市教育委員会

小松　旭編　『長崎県埋蔵文化財調査年報６』（平成９年度調査分）長崎県文化財調査報告書第150集
長崎県教育委員会

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧①

No.	報　告　書　名	発行年月日
第１集	長崎県遺跡地名表埋蔵文化財包蔵地一覧	1962,
第２集	五島遺跡調査報告	1964,
第３集	民俗資料調査報告書	
第４集	福井洞穴調査報告（図録編）	1966,
第５集	深堀遺跡	
第６集	男女群島特別調査報告	1968, 3
第７集	宮下遺跡調査報告（図録編）	1968, 3
第８集	対馬－豊玉村佐世保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告－	1969,
第９集	宮下遺跡調査報告（解説編）	
第10集	堂崎遺跡調査報告書（長崎県長与町所在）	1970, 9
第11集	有明海沿岸地区の民俗	1972, 3
第12集	長崎県の民家（前編・後編）	1972, 3
第13集	対馬西岸阿連・志多留の民俗	
第14集	里田原遺跡（図録）	1972,
第15集	下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）	1974, 3
第16集	対馬の文化財	
第17集	対馬－浅茅湾とその周辺の考古学調査－	1974, 3
第18集	里田原遺跡（略報Ⅱ）	1974,
第19集	壱岐の文化財	
第20集	対馬の遺跡	1975,
第21集	里田原遺跡	1975, 3
第22集	下五島の文化財	
第23集	長崎県民俗地図	1976, 3
第24集	諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告第１集（図録編）	1975,
第25集	里田原遺跡	1976, 3
第26集	原の辻遺跡	1976,
第27集	西彼杵半島猪垣分布調査概観	1977, 1
第28集	平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）	1977, 3
第29集	長崎県のカトリック教会	1977, 3
第30集	旧島原藩薬園跡環境整備報告	1977,
第31集	原の辻遺跡（Ⅱ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1977, 3
第32集	里田原遺跡	1977,
第33集	金石城跡緊急発掘調査報告書	1977, 3
第34集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅰ）採譜篇・別冊	
第35集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅰ	1978,
第36集	世知原町開作免の民俗	1978, 3
第37集	原の辻遺跡（Ⅲ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1978,
第38集	里田原遺跡	1978,
第39集	日蘭関係資料	1979, 3
第40集	平戸・上五島地区の文化財	1979, 3
第40集の２	平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）	1979, 3
第41集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅱ）採譜篇	1979, 3
第42集	長崎県の海女（海士）	1979, 3
第43集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅲ）	1979, 3
第44集	松浦市とその周辺地区の文化財	1979, 3
第45集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ	1979,
第46集	大村湾の漁労習俗	1980, 3
第47集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅳ）	1980, 3
第48集	キリシタン関係資料	1980, 3
第49集	佐世保市とその周辺地区の文化財	1979,
第50集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ	1980,
第51集	串島遺跡	1980, 3
第52集ａ	ケイマンゴー遺跡	1980, 9
第52集ｂ	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅴ）	1981, 3

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧②

No.	報　告　書　名	発行年月日
第53集	諫早・大村・北高来郡の文化財	1981, 3
第54集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1981,
第55集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ	1981, 3
第56集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1982,
第57集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ	1982,
第58集	堂崎遺跡－長崎県有家町所在の海中干潟遺跡－	1982, 3
第59集	島原・南高の文化財	1982, 3
第60集	針尾人崎遺跡－佐世保市針尾中町所在－	1982, 3
第61集	長崎唐寺関係所蔵品目録	1982, 3
第62集	長崎・西彼の文化財	1983, 3
第63集	橘湾の漁労習俗	1983, 3
第64集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1983,
第65集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1983, 3
第66集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ	1983, 3
第67集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅶ	1984, 3
第68集	今福遺跡Ⅰ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第一冊	1984, 3
第69集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ	1984,
第70集	長崎県の農具調査（前編）	1985, 3
第71集	名切遺跡	1985, 3
第72集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ	1985,
第73集	西ノ角遺跡	1985,
第74集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1985,
第75集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅷ	1985,
第76集	楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985,
第77集	今福遺跡Ⅱ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第二冊	1985,
第78集	百花台遺跡	1985, 3
第79集	長崎県の近世寺社建築　近世寺社建築緊急調査報告書	1986, 3
第80集	長崎県の農具調査（後編）	1986, 3
第81集	上原遺跡	1986,
第82集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ	1986, 3
第83集	殿崎遺跡	1986,
第84集	今福遺跡Ⅲ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第三冊	1986, 3
第85集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1986, 3
第86集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ	1987, 3
第87集	長崎県遺跡地図	1987, 3
第88集	長崎県の民謡	1987, 3
第89集	温泉岳　保存管理計画策定書	1988, 3
第90集	中道壇遺跡	1988, 3
第91集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅠ	1988, 3
第92集	百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1988, 3
第93集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ	1989,
第94集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ	1989, 3
第95集	魚洗川Ｂ遺跡－全国植樹祭会場造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1990, 3
第96集	長崎県の諸職調査	1990, 3
第97集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅢ	1990, 3
第98集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ	1990,
第99集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ	1991,
第100集	礫石原遺跡－県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1991, 3
第101集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅣ	1991, 3
第102集	対馬天然記念物緊急調査報告書	1991, 3
第103集	長崎県天然記念物実態調査報告書－対馬を除く－	1991, 3
第104集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅤ	1992, 3
第105集	上大垣遺跡	1992, 3

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧③

No.	報　告　書　名	発行年月日
第106集	県内古墳詳細分布調査報告書	1992, 3
第107集	大陸渡来文物緊急調査報告	1992, 3
第108集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅥ	1993, 3
第109集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書	1993, 3
第110集	長崎県遺跡地図－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区－	1994, 3
第111集	長崎県遺跡地図－島原市・南高来郡地区－	1994, 3
第112集	長崎県遺跡地図－壱岐地区－	1994, 3
第113集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ	1994, 3
第114集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ	1994, 3
第115集	中木場遺跡－水無川第３遊砂地造成工事に伴う発掘調査報告書－	1994, 3
第116集	県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1994, 3
第117集	長崎県遺跡地図－福江市・南松浦郡地区－	1995, 3
第118集	長崎県遺跡地図－対馬地区－	1995, 3
第119集	長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－	1995, 3
第120集	長崎県の民俗芸能－長崎県民俗芸能緊急調査報告書－	1995, 3
第121集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ	1995, 3
第122集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ	1995, 3
第123集	万才町遺跡　長崎県庁新別館建替えに伴う発掘調査報告書	1995, 3
第124集	原の辻遺跡	1995, 3
第125集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ	1996, 3
第126集	伊木力遺跡Ⅰ	1996, 3
第127集	黒丸遺跡Ⅰ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書－	1996, 3
第128集	中木場遺跡Ⅱ－水無川４号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査－	1996, 3
第129集	中木場遺跡Ⅲ－水無川１号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査－	1996, 3
第130集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ	1996, 3
第131集	長崎奉行所関係文書調査報告書	1997, 3
第132集	黒丸遺跡Ⅱ	1997, 3
第133集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	1997, 3
第134集	伊木力遺跡Ⅱ	1997, 3
第135集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	1997, 3
第136集	稗田原遺跡Ⅰ	1997, 3
第137集	広平遺跡	1997, 3
第138集	桟原城跡	1997, 3
第139集	石田城跡	1997, 3
第140集	長崎県の近代化遺産－長崎県近代化遺産総合調査報告書－	1998, 3
第141集	大浜遺跡	1998, 3
第142集	蒲河遺跡	1998, 3
第143集	沖城跡	1998, 3
第144集	桜町遺跡	1998, 3
第145集	稗田原遺跡Ⅱ	1998, 3
第146集	長崎奉行所（立山役所）跡	1998, 3
第147集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	1998, 3
第148集	長崎県埋蔵文化財調査年報５	1998, 3
第149集	馬乗石遺跡	1998, 3
第150集	長崎県埋蔵文化財調査年報６	1999, 3
第151集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ	1999, 3
第152集	稗田原遺跡Ⅲ	1999, 3
第153集	長崎県の隠れキリシタン調査報告書	1999, 3
第154集	長崎街道（歴史の道調査事業報告書）	1999, 3
第155集	長崎県埋蔵文化財調査年報７	2000, 3
第156集	県内主要遺跡内容確認調査報告書	2000, 3
第157集	稗田原遺跡Ⅳ	2000, 3

六　平成５年度から平成10年度の発掘調査件数

		平成５年	平成６年	平成７年	平成８年	平成９年	平成10年
緊急調査	道路	20	32	20	14	12	16
	鉄道	0	0	0	0	0	0
	空港	0	0	0	0	0	0
	河川改修	3	4	4	1	1	1
	ダム建設	0	0	0	0	1	1
	学校	2	2	2	2	3	5
	住宅・宅地	13	29	35	31	16	15
	区画整理	8	5	2	3	2	0
	その他建物	12	17	11	9	11	11
	ガス・電気・水道	10	8	0	1	5	2
	工場	2	0	0	2	4	1
	農業関連	16	28	22	29	33	20
	ゴルフ場	3	0	0	0	0	0
	土砂採取	1	0	1	0	0	0
	その他開発	9	12	23	0	7	10
	観光開発	0	1	1	0	0	0
	自然消滅	2	0	0	0	1	0
	遺跡整備	9	4	12	2	2	5
	確認試掘	6	11	0	4	2	11
	公園	7	5	0	3	2	4
学術調査		11	10	0	0	0	1
合計		134	168	133	108	102	103

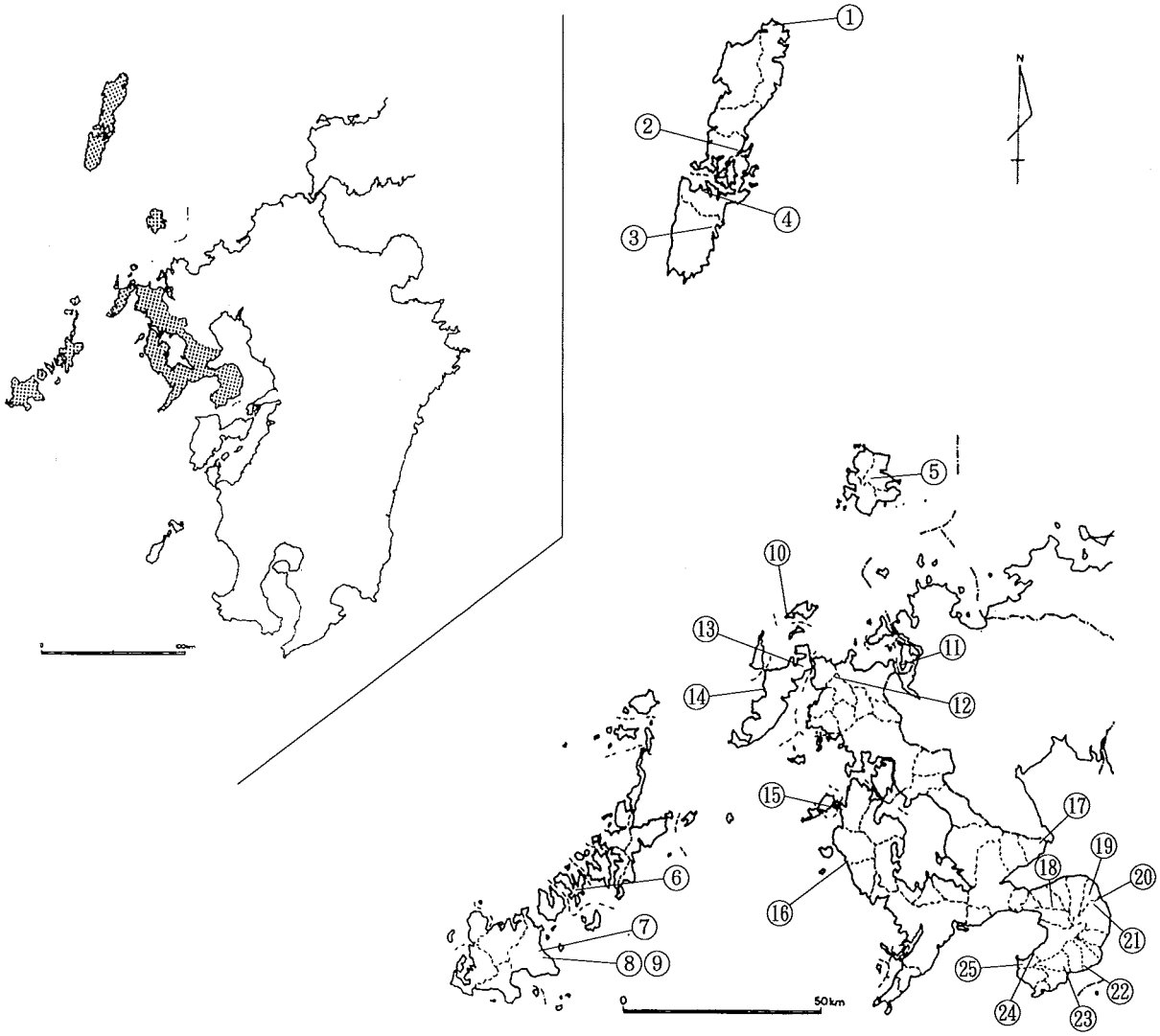
平成５年度から平成10年度の県市町村別職員数

	平成５年度		平成６年度		平成７年度		平成８年度		平成９年度	
区分	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村
職員数	15(2)	16(2)	18(2)	24(2)	16(3)	32(2)	17(3)	34(8)	17(3)	32(9)

	平成10年度	
区分	県	市町村
職員数	17(3)	32(9)

（　）は嘱託等を示す外数である

Ⅱ　各遺跡の調査概要



平成10年度長崎県内発掘調査箇所

①豊大畑遺跡	（上対馬町）	⑩長畑馬場遺跡	（大島村）	⑲大野原遺跡	（有明町）
②クワバル古墳	（豊玉町）	⑪平野遺跡	（福島町）	⑳景華園遺跡	（島原市）
③金石城跡	（厳原町）	⑫根引池遺跡	（江迎町）	㉑稗田原遺跡	（島原市）
④金田城跡	（美津島町）	⑬緑ヶ丘遺跡	（平戸市）	㉒蒲河遺跡	（有家町）
⑤妙泉寺古墳群	（芦辺町）	⑭獅子第３遺跡	（平戸市）	㉓日野江城跡	（北有馬町）
⑥城岳城跡	（奈留町）	⑮釜敷山遺跡	（西海町）	㉔峰城跡	（南串山町）
⑦曲坂遺跡	（福江市）	⑯清水遺跡	（大瀬戸町）	㉕妙見床遺跡	（南串山町）
⑧石田城跡	（福江市）	⑰遠竹遺跡	（小長井町）		
⑨石田城跡	（福江市）	⑱西原遺跡	（瑞穂町）		

①豊大畑遺跡（とよおおはた）

所 在 地	上県郡上対馬町大字豊	**調査主体**	上対馬町教育委員会
調査原因	豊小中学校建設工事	**調査面積**	28㎡
調査期間	平成10年７月27日～８月５日	**処　　置**	遺跡部分については現状保存
報 告 書	未刊行		

立　地

対馬の最北端上対馬町豊の部落は，豊川によって運ばれた狭小な沖積地に位置するが，遺跡はそのやや上流，標高９～11m位の河岸段丘上に位置する。

当該地付近には，従来畑の中に積石塚が知られていたが，範囲確認の調査の結果，邪魔になった小石を積み重ねていただけの現代遺構であることが判明した。

TP. 14　調査状況

調　査

平成７年11月に当該地に対する範囲確認調査の際，草木繁茂のため確認出来なかった区域について，６箇所の調査区を設定してそれぞれ精査を行った。

調査の結果，各調査区域とも土層の堆積が薄く，遺物や明確な包含層や遺構は確認出来なかった。

また，出土遺物については弥生時代から古墳時代に至る遺物が散見されるものの，何れも表土中の資料であった。

以上の状況から，今回の調査区内における学校建設工事は支障がないことが判った。

但し，平成７年の範囲確認の際には遺構，包含層共に確認されており，校舎の設計にあたっては，埋蔵文化財に配慮するよう申し入れていたが，その後上対馬町教育委員会において遺跡を除外する方向で設計がなされたことを確認した。

［調査担当：阿比留伴次（峰町教育委員会）　高野晋司（県文化課）］（文責　高野）

② クワバル古墳

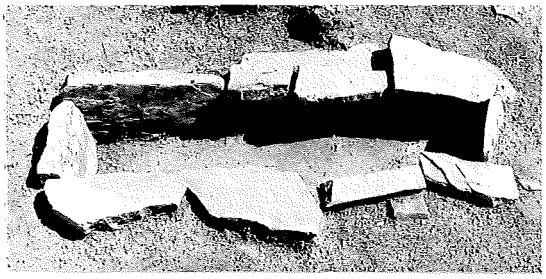
所 在 地	下県郡豊玉町大字曽字桑原245番地他	**調査主体**	豊玉町教育委員会
調査原因	町道仁位曽線改良工事	**調査面積**	210㎡
調査期間	平成10年5月11日～平成10年5月22日	**処　　置**	調査後復元・埋め戻し
報 告 書	『クワバル古墳』平成10年10月刊行		

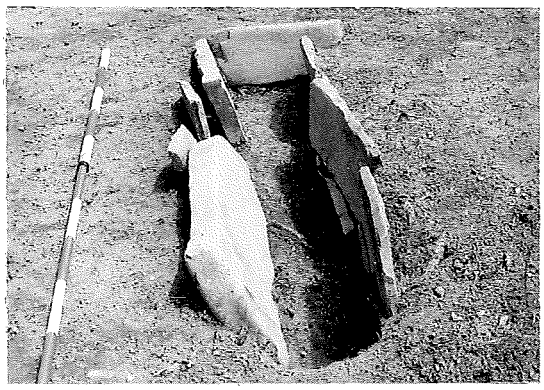
立　地

本古墳は，対馬中部に近い東海岸から内陸およそ1.5kmほどの所にある。曽川が開析してつくった谷間平野に面した丘陵上の先端部分で，標高25mから30mほどの場所にあり，北側はそのまま谷に落ち込んでいる。

調　査

平成9年度から試掘調査の対象となったもので，道路予定地外の1号石棺は昭和23（1948）年の東亜考古学会の調査により，知られていたものである。平成9年度の試掘調査によって1号石棺の北側斜面に新たな1基が見つかり，2号石棺とされた。周辺に鉄器や陶質土器などの散布も認められ，平成10年度に本調査を実施することとなったものである。





上：クワバル古墳1号棺　下：クワバル古墳2号棺

遺　構

1号・2号とも箱式石棺を埋葬主体とする墳墓であるが，いずれも明瞭な墳丘はもたない。対馬層群に簡単な掘り込みを行い，そこに板石で箱式石棺を組み立てている。1号石棺はやや厚目の石材を使用し，割りと丁寧につくっている。現在天井石は残っていないが，石棺の上縁を揃えていることから，築造時の大きさがわかる。すなわち，石棺の内法で長さ162cm，幅43cm，深さ37cmである。2号石棺は長さ約160cm，幅約30cm，深さ約30cmで，薄めの板石で構築されているが，天井石は残っておらず，側壁の一部も欠失している。

出土遺物

かつての調査で石棺内部は浚われており，今回の調査に伴っての出土遺物は認められなかった。1号石棺と2号石棺の間の腐植土層のなかから，土器・鉄器などが見つかっている。土器は土師器と陶質土器で，土師器は高坏の脚部が殆どである。陶質土器は，坏・坩・高坏・把手付き壷など多様にわたる。また，碧玉製の勾玉や，鉄剣・鉄斧などの鉄製品も出土している。出土した遺物から，当墳墓の築造年代は5世紀前半代と考えられる。　［調査担当：藤田・荒木］（文責：藤田）

③金石（きんせき）城跡

所 在 地	下県郡厳原町大字今屋敷地内	**調査主体**	厳原町教育委員会
調査原因	復元整備	**調査面積**	500m²
調査期間	平成10年9月14日～11月6日	**処　　置**	現状保存
報 告 書	刊行予定		

立　地

金石城は標高10～13mの，清水山と鶴翼山に挟まれた谷部に位置する。

城は，宗家14代将盛が享禄元年（1528）に金石屋形をつくり，延宝6年（1679）まで国守の館として150年間存続している。

過去に昭和51年・56年・平成4年・9年に調査をおこなっている。

調査区近景

調　査

今年度の調査は，平成9年度調査で確認した「泉水池」の構造と石垣遺構の内容を詳細に把握することを目的とした。

10月14日までの調査で昭和36年の厳原中学校時代に構築された池と，その中島と思われるアマカワで水漏れを防止した円形石垣遺構を検出した。重機にて除去後，玉砂利の敷かれた池底がH～K21～23にひろがり，さらに調査区北端まで続くことを確認した。K24トレンチで昨年確認されていた暗渠遺構周辺を掘り下げた結果，J・K24にのびる側溝状遺構を確認した。この側溝は東西二列の石垣を利用している。東側の石垣はほぼ一定の間隔で縦横1m強の鏡石を配置し，間に長方形の切石を積んでいく手法をとっており，金石城当時の石垣と思われる。西側の石垣は鏡石を用いず，長方形の切石で積み，構築は後世であろう。これらの状況から，金石城当時の石垣を利用し，西側に新たに石垣を構築して側溝として利用していたと考えられる。

J・K24で南北にのびる金石城当時のものと思われる石垣は，I24～25にかけ東にほぼ直角に折れる。ただし石垣上部は，構築手法が金石城当時のものと異なるため，石材の除去後，後世に再構築されたものと考えられる。なおI25で，この石垣に直交してさらに北に折れる石垣の一部を検出した。

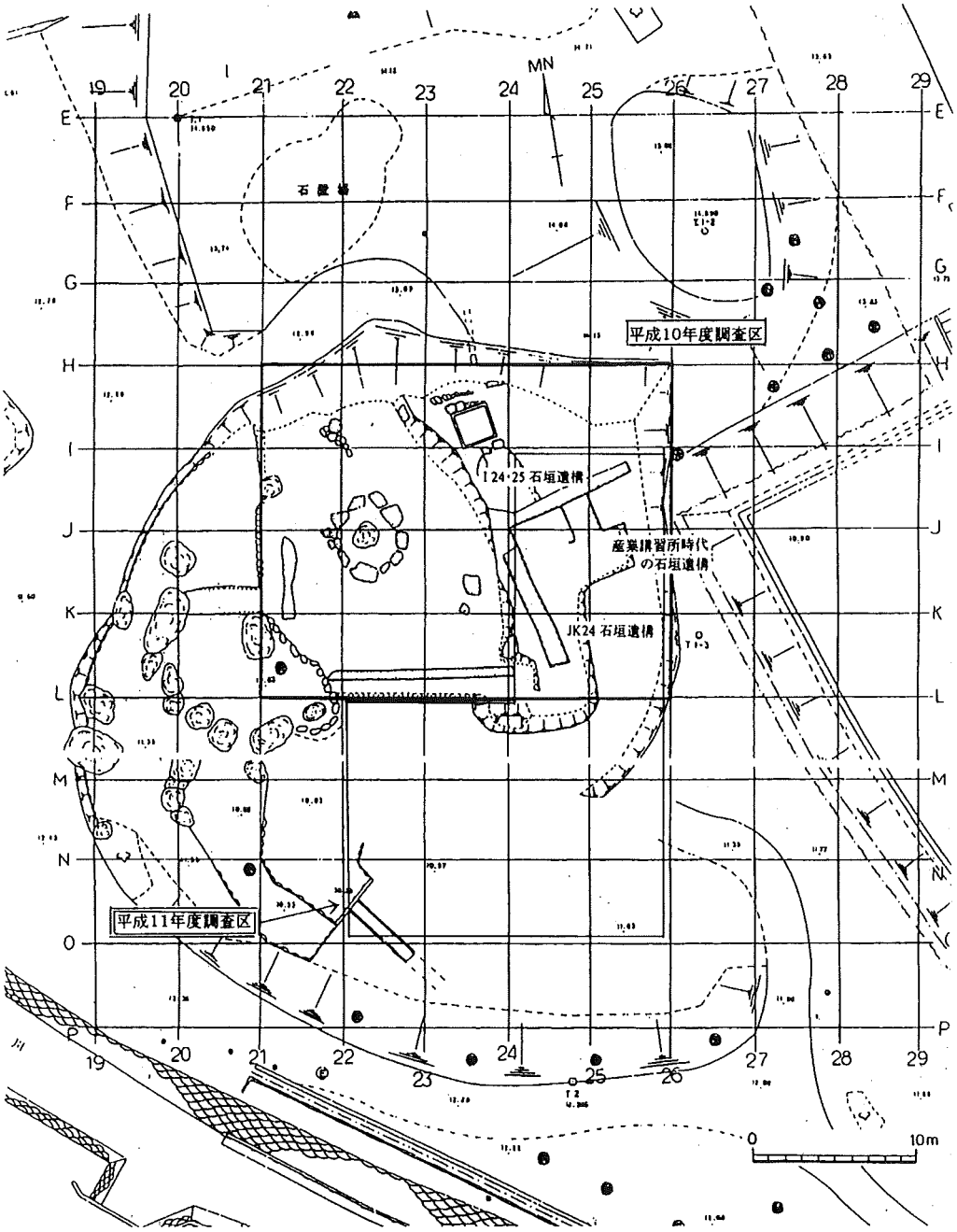
I24・25，J24・25においても，東西で中央に向き合う，南北方向の石垣を二列検出した。これはJ・K24の石垣と平行に構築されている。しかし石垣は客土に乗っており，構造からも，産業講習所時代に，解体した金石城の石垣石材を流用して構築したものと考えられる。

石垣の南北―東西の変換点となる隅石の南に池底と同様な版築構造を確認した。版築は赤土と黄色土を交互に重ねたもので，J24の側溝東側の石垣を切るかたちで，上方に傾斜しつつ池底から東の石

垣上方に向かう。よって池の東端は昨年の調査でK24に確認された，池底の立ち上がり部分からこの版築部に至る線におよそ推定される。

池底と見られる玉砂利の面はK24の側溝西側石垣遺構の上面に被さるように広がっており，これによれば側溝構築後に池に玉砂利がひかれたことになる。

［調査担当：町田・川道・福田・尾上・松本・小磯］（文責：尾上）



調査区と遺構配置図

④金田城跡（かねだ）

所 在 地	下県郡美津島町黒瀬および箕形	**調査主体**	美津島町教育委員会
調査原因	遺跡整備	**調査面積**	150㎡
調査期間	平成10年9月28日～11月6日	**処　　置**	調査後埋め戻し
報 告 書	平成11年度刊行予定		

金田城土塁の調査風景

立　地

金田城の整備にともなう発掘調査は平成5年に始まり，今年で6年目を迎えた。今年度の発掘調査は金田城内の通称ビングシ山（標高85m）と一ノ城戸，二ノ城戸で実施した。

調　査

(1)　ビングシ山の調査

昨年北側土塁の断ち割調査の際に二重構造の土塁を確認していたが，これが南側にも存在するのかという問題と，新旧という時間差によってつくられた土塁なのか，同一工程のなかでつくられた前後の土塁かという問題を解決すべく補完調査を実施した。調査の結果，二重構造の土塁は南側にも存在することが判明し，東斜面には土留石が検出された。土留石は巨石を立てて作られ，あたかも神籠石の根固め石のような状況を呈す。石の表面下部の1/3ほどは淡赤褐色に変色しており，石の上部は一時期地表面にでていたことがわかった。セクション面には有機物の層が観察され，旧表土と判断された。したがって二重構造の土塁は新旧の時間差をもって構築されたことが判明した。

(2)　二ノ城戸の調査

城戸の構造を解明すべく石垣に直交して3本のトレンチを設定した。城戸中央部付近に設定したT2は2m以上下げても地山や基盤層を検出することはできなかった。2m付近からは砂質土を突き固めた版築土層が確認された。版築層は石垣前面で斜めにカットされており，石垣と版築層の間にレキ混じりの土を充填して城戸を構築している。したがって城戸の中央部は旧地形が深い谷となっており，この谷を版築によって埋め立て，その前面に石垣を構築していると推定される。

城戸周辺部（石塁部分のトレンチ）は地山ないし基盤層の落ち込みをそのまま利用し，版築した土層は存在しない。

(3)　一ノ城戸の調査

水門の直上に石垣に直交するトレンチを設定した。城戸の構造は二ノ城戸のものと同様である。しかし出土した石垣は二ノ城戸のものや石塁付近の石積みとは異なり，石垣の表面をそろえて組んだものであった。　　［調査担当：田中（美津島町教育委員会）　調査支援：古門］（文責　古門）

⑤妙泉寺（みょうせんじ）古墳群

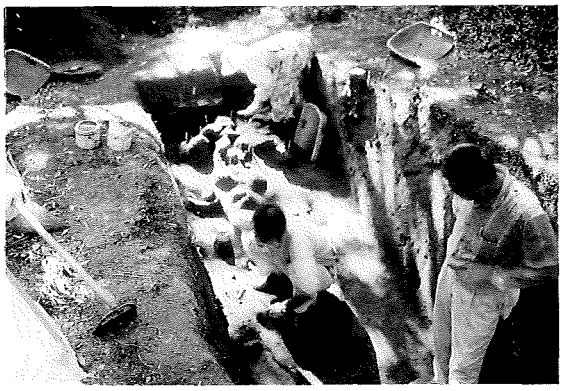
所 在 地	芦辺町中野郷東触	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	80㎡
調査期間	平成10年８月17日～９月17日	**処　　置**	調査後埋め戻し
報 告 書	11年度刊行予定		

立地・調査

本古墳群は芦辺町中野郷東触に所在する。標高120～130mの舌状台地南縁に東西に並ぶ。

古墳は１～５号墳まであり，４号墳は近年消滅している。現存する４基について墳丘測量をおこない，石室の開口する１号墳と３号墳について石室実測をおこなった。また石室・羨道部はクリーニングを実施した。

墳丘測量については，1/100，25cmコンタの図面を作成した。



調査風景

１号墳は横穴式石室で，石室内部全面を赤色顔料で装飾を施している。単室で石室全長4.7m，玄室長3.5mである。床は玉砂利敷きであった。細かい石材を使用していたため，1/10の実測図を作成した。羨道部のクリーニング中に金銅製の辻金具，耳環および多数の鉄片ほか須恵器の大型器台も出土した。

３号墳は前室と玄室の２室を持つ複式構造で，現存する石室全長は約８mである。巨大な石材を使用する。1/20で記録をおこなった。須恵器が1点出土している。

［調査担当：副島・川口・尾上・荒木・松永・山口］（文責：尾上）

⑥ 城岳（しろたけ）城跡

所 在 地	南松浦郡奈留町浦郷菜切河内323番４	**調査主体**	奈留町教育委員会
調査原因	無線通信基地建設	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成10年11月24日～11月27日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	刊行予定なし		

立　地

奈留町は，五島列島の中央部に位置し，島の形は複雑なリアス式海岸を呈しており，その形はヤツデにたとえられている。中央部に約190ｍの標高をもつ城岳が鎮座し周辺の島々を見下ろすことができ，古代より信仰の対象となっていた。昨年度の調査では16世紀後半の舶載陶磁器が出土しており，日明貿易に関わったこの地の豪族，奈留氏の活動を示す内容であった。ただし遺構等は概に削平された状況にあった。

遺跡近景

調　査

今回の調査では鉄塔建設予定地にトレンチを設定したが，表土の腐植土を取り除いた段階で地山の安山岩が出土し，包含層等は認められなかった。また，去年の調査で出土したような舶載陶磁器の出土もなく，概に削平された状況にあった。　［調査担当：小松］（文責：福田）

⑦ 曲坂（まがりさか）遺跡

所 在 地	福江市松山町曲坂	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般県道河務福江線特殊改良工事	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成10年11月９日～13日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	刊行予定なし		

立地・調査

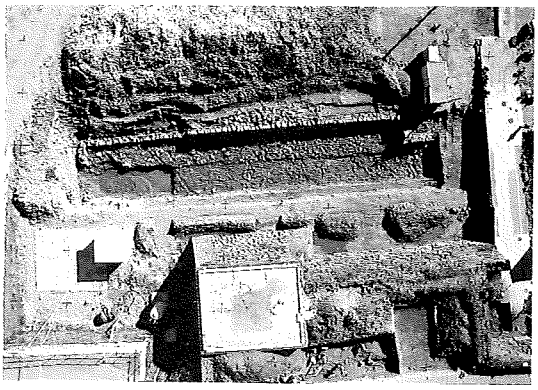
曲坂遺跡は縄文時代の遺跡であり，現地は標高約20～22ｍの丘陵地である。調査は，工事予定範囲内に試掘坑を５か所（２×２ｍ）設定した。その結果，表土下は黄色土の地山層ないしは埋め土で，全試掘坑とも遺構・遺物包含層は認められず，また遺物の表採もできなかった。この為，工事には支障ないものと判断し調査を終了した。

［調査担当：川道・中村］（文責：中村）

調査区近景

⑧石田城跡（いしだ）

所 在 地	福江市福江町７番地	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	五島高校体育館改築工事	**調査面積**	650㎡
調査期間	平成10年11月26日～12月18日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	平成12年度刊行予定		


調査区全景

立　地

石田城の位置は，福江港から南西へ約400ｍの標高５～10ｍにある。石田城の築城は，嘉永２年（1849）第30代盛政に始まり，文久３年（1863）第31代盛徳で完成している。

調　査

まず体育館建設予定地の南西の現存する内堀の石垣に沿って，内堀の石垣の検出をおこなったところ，グラウンドレベルから約１ｍ下に石垣が検出された。その後石垣はグラウンドレベルから20～30㎝下まで高くなり，高さ約２ｍ，長さ3.5ｍが確認された。石垣はそこから内堀の幅を広げる方向（南東）に90度曲がり，さらに３ｍの地点から最初に検出した石垣に平行に約40ｍ延びていった。ただし石垣は26.5ｍ地点までは約2.0～2.5ｍの高さを測ったものの，その後の約13ｍは高さ約１ｍまで低くなり，旧体育館及びプール等の建造物で損壊を受けているようであった。ここから石垣は本丸方向へ90度曲がっていくが，途中が欠損している状態で，残っている石垣も高さは約１ｍ程度であった。石垣のほとんどの石は加工を施しておらず，海岸などから運んできたものをそのまま利用している。

堀底は本丸から石垣にかけて１段の段差が付けられ，その段差は約20㎝地山面を掘り下げていることを確認した。また，本丸に沿って曲がる堀の角にあたる部分は約１ｍ地山面を掘り下げていた。

遺物は，近世の陶磁器・瓦等がパンコンテナーに３箱分出土した。

まとめ

以上の調査により，石田城堀の石垣遺構は長さ東西43ｍ・幅２ｍ・高さ2.5～1.0ｍを確認した。遺構については写真測量による記録保存をおこなっており工事に支障はないが，可能な限り石垣を保存する方向で工事をおこなうよう指示した。　［調査：町田・大浦・荒木］（文責：大浦）

⑨石田（いしだ）城跡

所 在 地	福江市福江町字東町７番地	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	五島高校改築 （ふるさと古代遺産保存継承事業）	**調査面積**	180㎡
		処　　置	県指定石垣部分保存
調査期間	平成10年12月14日～12月25日		
報 告 書	刊行予定		

立　地

調査地点は，石田城跡の本丸南側の県指定石垣裏込めから北側へ約10ｍの五島高校敷地内で標高約10ｍを測る部分にあたる。

調　査

事業は，五島高校本館と体育館を結ぶ渡り廊下及びスロープ設置のための基礎工事を行う計画である。

調査は，Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区とし基礎工事実施部分にトレンチを設定した。

遺構検出状況

Ⅰ区は，１層から４層にかけて攪乱を受け，築城時の瓦と近年の遺物が混在した状況で出土している。遺構は，４層までを近年の配管工事等で掘削を受け遺構を確認できなかったが，地山面（黄赤色粘質土）に柱穴を８基検出し柱穴内から瓦片の出土が認められた。調査区南側からは，高さ２ｍで現状の検出幅が4.5ｍの裏込石垣を確認した。石垣は，50～60cm程度の角礫を10～20cm程度の礫で隙間を埋め構築している。また，トレンチ東側隅に嘉永２年（1849）築城開始以前の遺構として地山をカットした石列遺構を確認している。

Ⅱ区は，大手門と本丸石垣との間に設定したトレンチで約１ｍの暗茶色土が堆積し以下は地山となっており，遺構を確認できなかった。

Ⅲ区は，南側の内堀部分にあたる。深さ約２ｍ程精査を行い約1.5ｍは体育館建設時の客土があり，以下50cmが堀に堆積した泥土であった。

まとめ

調査の結果，Ⅰ区において築城時の裏込石垣，柱穴を検出し，また築城以前の石列遺構を確認したことで，石田陣屋跡に関係する遺構として重要である。Ⅱ区は，大手門内部の掘削を行った状況で遺構を検出できなかった。Ⅲ区は，内堀の床面まで精査をおこない，床面は，地山面（岩盤）まで掘削し堀を構築していることを確認した。

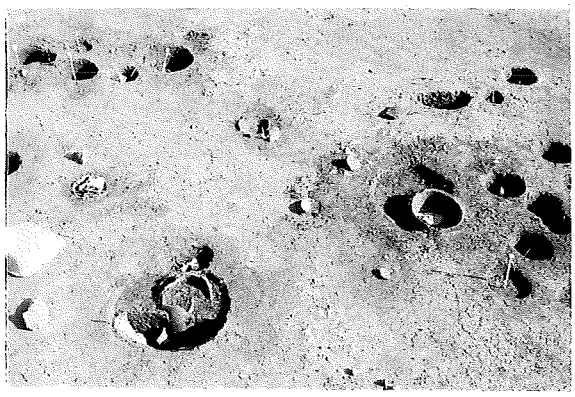
［調査担当：町田・川道・荒木　調査協力：松崎（福江市教育委員会）］（文責：町田）

⑩長畑馬場遺跡（ながはたばば）

所 在 地	北松浦郡大島村戸田免字長畑	**調査主体**	大島村教育委員会
調査原因	中山間地域総合整備事業（圃場整備）	**調査面積**	1,400㎡
調査期間	平成10年9月28日～10月30日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	平成11年度刊行予定		

立　地

長畑馬場遺跡は，的山大島の南西部に突き出た半島の中央部に立地する。遺跡の周辺は南方に緩やかに下がる低位溶岩台地である。海岸線は南側が断崖，東側が礫浜海岸となっている。海岸からの距離は約200m，標高は35～45mを測る。



遺構検出状況

調　査

表土剥ぎを行ったあと，国土座標〈(52300, 1740)，KBM：h＝42.967m〉を基準として，10m四方のグリッドを設定し掘り下げをおこなった。

遺構はピットを中心に，約3m四方の方形の住居址と一辺が約2mの隅丸方形をした土壙と，甕棺が10基，甕棺と思われるものが4基検出された。住居址はほとんど削平されており，掘り込みが浅いところで数cm，深いところでも十数cmしか残っていなかった。甕棺の時期は弥生中期で，ほとんどが上部を削平されており，単棺か合口のものか区別が付かないものもあった。大きさかから見て小児棺と思われる。

遺物は，ピット内から須玖式土器口縁部等弥生時代中期の遺物が主体となって出土している。甕棺からは管玉（1号甕棺），小玉（2号甕棺），釧と思われる金属製品（7号甕棺）と人骨（8号甕棺）が出土した。祭祀遺構と思われる土壙からは，獣骨などが拳大から人頭大の礫といっしょに出土した。

まとめ

平成10年度の範囲確認調査を受けての本調査となった。長年の耕作，昭和40年代の基盤整備などにより遺物包含層は削平されているものと思われ，また遺構も地山に切り込んだものだけ部分的に残っているようである。

調査日程の関係で来年度も引き続き調査を実施するが，今年度未調査の地区以外にも調査範囲が広がる可能性があるため，引き続き協議を行う必要がある。

［調査：大浦・荒木］（文責：大浦）

⑪ 平野（ひらの）遺跡

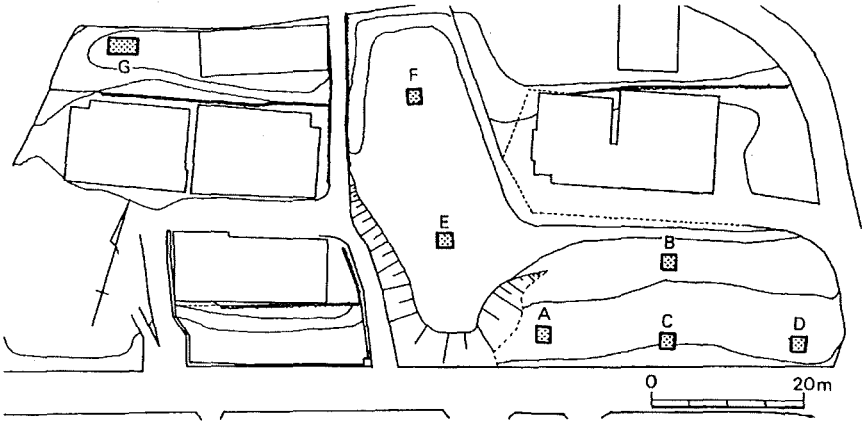
所 在 地	北松浦郡福島町塩浜免字柳及び平野地内	**調査主体**	福島町教育委員会
調査原因	町道改良とオートキャンプ場の整備工事	**調査面積**	32㎡
調査期間	平成10年６月１日～６月４日	**処　　置**	調査後埋め戻し
報 告 書	刊行予定なし		

立　地

福島町は玄海国定公園区域内に位置し，東松浦半島と北松浦半島に囲まれた伊万里湾内にある。北西には元寇で有名な鷹島があり，南東対岸の佐賀県伊万里市とは昭和46年に福島大橋が結ばれ陸上交通が可能となった。本遺跡は島の南西端の丘陵上に位置し，標高は10～18m程度である。昭和59年の県の分布調査により遺跡と確認されている。

調　査

２m×２mの調査区をA～Gまでの７箇所設定した。A～D区は地形的にも良好であり，包含層の残存が期待されたが，各グリッドとも表土下20～30cmで基盤の玄武岩風化土層に達し，50cmで基盤岩に到達した。この地区は表面に黒曜石の散布が見られることから，包含層は後世の耕作等によって消滅したものと考えられる。E・F区については後世削平され，何回かの埋土を行ったことが土層より確認され，基盤岩に現代のごみ穴が掘られているなど完全な削平が行われていた。G区は最初２箇所設定の予定を２×４mのグリッドを設定した。この地区も表土下30cmで岩盤に達した。以上の結果，包含層は確認できず，工事に支障はないものと見られる。　　［調査：福田・大浦］（文責：大浦）



調査区位置図

⑫ 根引池（ねびきいけ）遺跡

所 在 地	北松浦郡江迎町根引免	**調査主体**	江迎町教育委員会
調査原因	広域農道工事	**調査面積**	35㎡
調査期間	平成10年11月24日～12月３日	**処　　置**	次年度本調査
報 告 書	平成11年度刊行予定		

立　地

北松地区は，旧石器時代の遺跡密度が高いことで知られる。根引池遺跡は，200m級の山を背後に控えた，標高約140mの東西に延びた丘陵上に位置する。周囲には旧石器時代主体の白岳遺跡，縄文早期の煙道付き炉穴が確認された大久保遺跡などがあり，旧石器から縄文早期にかけての遺跡が集中する地域である。

調査区遠景

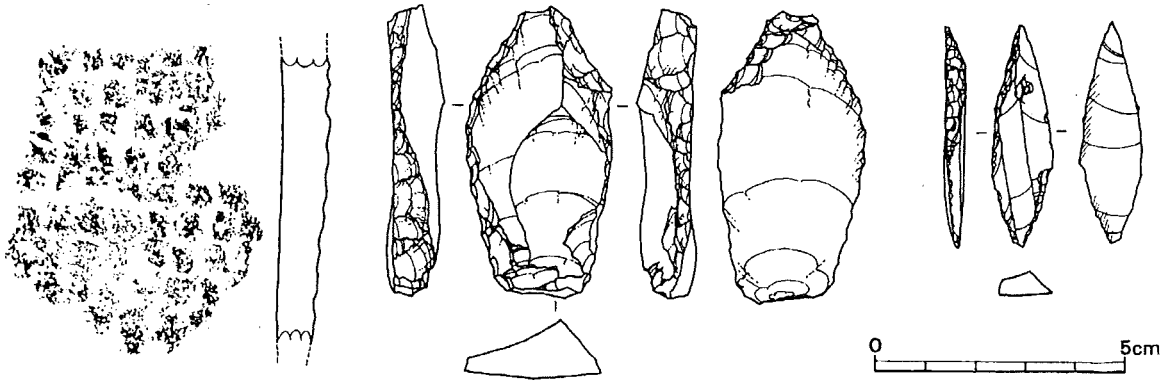
調　査

調査は，道路工事と公園の工事に伴うもので，2×2mのグリッドを9箇所設定しておこなった。結果，東側の山の急傾斜免では数十cmで地山である玄武岩に達し，遺物等は見られなかったが，丘陵上西側の緩傾斜面ではナイフ形石器や押型紋土器・石鏃などが出土した。また，公園化を予定している南側からは，押型紋土器が出土したが包含層は概に流出した状況であった。土層は表土下に2層の暗褐色の砂質土層（縄文早期の包含層）・3層の明黄褐色土層（旧石器時代の包含層）・4層の灰白色粘土層・5層の赤褐色粘土層（4・5層は地山の玄武岩風化土層）からなり，今回は4・5層からの遺物の検出はなかった。周辺は後世の土取りによりかなり削平されているが，小丘陵の西側斜面には良好な包含層が残存する可能性が高く，調査を要する面積は380㎡と試算した。事業者に対しては本調査の実施が必要である旨を報告し，来年度本調査をおこなうことで合意した。

遺　物

旧石器時代の遺物として，漆黒色黒曜石を使用した柳葉形のナイフ形石器や小形の石核，玄武岩製のナイフ形石器，縄文時代のものとして石鏃・押型紋土器数点が出土した。ナイフ形石器はかなり整った剥片を使用しており，後期旧石器時代の縦長剥片剥離技術の卓越した時期のものであろう。玄武岩を使用したナイフについては，剥片の両側片にブランティング加工をおこない，先端部を先鋭にしている。最終的に先端部にフルーティング状の加工をしているが，彫器的機能を持ったのか尖頭器的機能を持ったのかについては定かではない。その形態や製作技術についても初見であり，本調査での成果を待ちたい。

［調査担当：福田］（文責：福田）



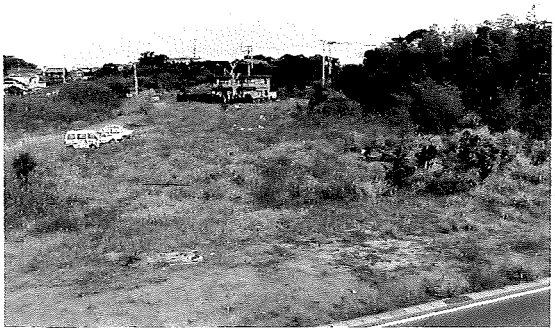
根引池遺跡範囲確認調査出土遺物

⑬緑ヶ丘（みどりがおか）遺跡

所 在 地	平戸市岩の上町字緑が丘825－1	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	開発事業に伴う予備調査	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成11年2月22日～2月26日	**処　　置**	設計変更後，保存
報 告 書	刊行予定なし		

立　地

長崎県の最大の半島で，県の北部に位置する北松浦半島の西に平戸島がある。遺跡は，島の北東部の平戸瀬戸に面し，僅かに舌状に張り出した標高45m～54m程の丘陵部分に立地し，東側対岸には北松浦半島の田平町が在り，現在は平戸海峡の約600mの間を平戸大橋によって結ばれている。



遺跡遠景

平戸海峡を挟んだこの付近一帯には，旧石器時代～縄文時代にかけての遺跡が多数分布している。

調　査

調査は，遺跡の分布範囲の約1.5万㎡の内，遺跡の北東部分に当たる県警官舎建設計画予定地の0.14万㎡について，平成10年度国庫補助事業のふるさと古代遺産保存継承事業・開発事業に伴う予備調査の一環として実施した。

計画区域内に2m×2mの試掘坑を5箇所設定した。いずれの試掘坑も地表から約80cm位まで，後世の盛土による造成された状況がほぼ調査全域に渡って観察された。

調査区の内，試掘坑3においては，良好な土層堆積が見られ，盛り土下に第三層褐色混礫土層（無為物層），その下層に暗黄褐色粘質土層が約70cm堆積し，地山に至る。この試掘坑の第四層から旧石器時代の黒曜石製遺物が2点出土した。遺物はいずれも剥片で，石器群の在り方から中心部分から外れた部分での遺物依存状況を呈す。

その他の試掘坑1～2・4～5は，盛り土の下は地山で，遺構・遺物等の出土はなかった。

まとめ

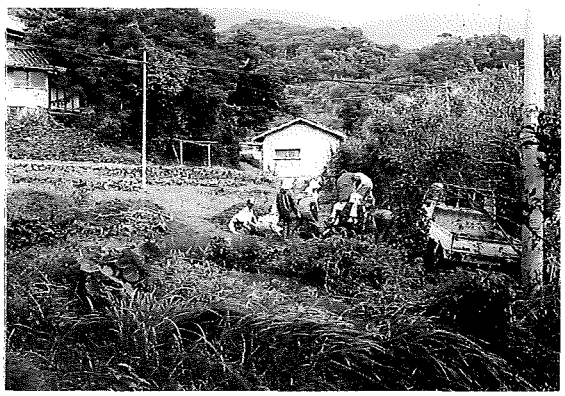
遺跡は，縄文時代・古墳時代の複合遺跡であったが，今回の調査範囲からは既存の時代の遺物・遺構は検出されず，新たに旧石器時代の遺物包含層が確認された。規模は，500㎡程の狭い範囲に分布状況を呈し，旧石器時代の中での時期については詳細は不明である。

遺跡の取り扱いについては，調査成果を基に開発機関と協議を行った結果，全面的に開発区域から外して保存を図ることになった。

［調査担当：副島・大浦］（文責：副島）

⑭ 獅子（ししこ）第３遺跡

所 在 地	平戸市獅子町深坂	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県道改良工事	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成10年11月16日～11月26日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	刊行予定なし		



調査風景

立　地

獅子は，平戸島の西側にあり，視界の良い日には，海を隔てて宇久島を遠望できる。遺跡は，標高25～30ｍの斜面にひろがっているが，谷状の地形となっており，現状は，水田あるいは畑地である。

調　査

調査は，工事予定地に５箇所の試掘坑を設定して行った。しかし，いずれの試掘坑においても，遺構・遺物包含層は確認されなかった。調査地点は，谷の斜面と暗部にあたり，河川流による岩石の堆積が顕著であった。これらのことから，工事に支障はないと判断された。

［調査担当：川口］（文責：川口）

⑮ 釜敷山（かまじきやま）遺跡

所 在 地	西彼杵郡西海町中浦北郷字東釜敷1423	**調査主体**	西海町文化財保護協会
調査原因	通信用鉄塔建設	**調査面積**	16㎡
調査期間	平成10年４月21日～４月24日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	刊行予定なし		

調査風景

立　地

遺跡は西海町南部にあたる中浦北郷の釜敷山（標高179.6ｍ）の頂上付近に位置する。遺跡周辺の地目は畑地であるが，荒蕪地が広がりつつある。遺跡は旧石器時代から縄文時代にかけての遺物包蔵地で，今回の調査区の畑からはナイフ形石器や石鏃などが採集された。

調　査

今回調査した地点は，遺跡の末端部にあたるが，過去に駐車場整備や畑かんがい事業などによってある程度地形の改変を受けたものと思われ遺物の出土や，包含層の確認はなかった。工事に支障はないものと判断し，調査を終了した。

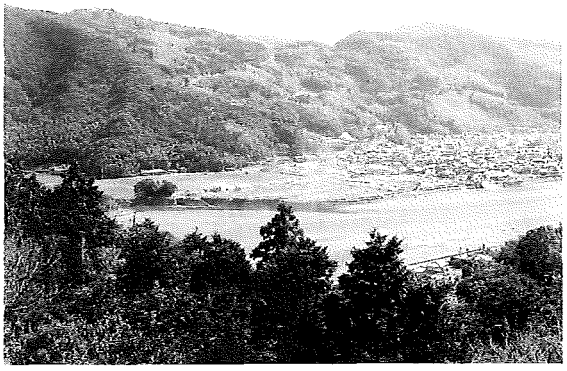
［調査担当：川道］（文責：福田）

⑯清水（しみず）遺跡

所 在 地	西彼杵郡大瀬戸町雪浦上郷	**調査主体**	大瀬戸町教育委員会
調査原因	雪浦診療所建設	**調査面積**	535㎡
調査期間	平成11年1月7日～3月25日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	刊行予定		

立　地

清水遺跡は，雪浦川河口の左岸に形成された砂丘の東側に位置する。遺跡は昭和47年ころ周辺で発掘調査がおこなわれ，存在が確認された。



遺跡遠景

調　査

基本層序としてⅠ～Ⅶ層を確認した。

Ⅴ層では17～18世紀の陶磁器とともに結晶片岩および少量の蛇紋岩による配石遺構を検出した。Ⅵ層およびⅦ層では，遺構は検出されず，石錘・土器・石器・加工痕のある木材のほか，獣骨・貝・木片などの動植物遺存体が出土した。

土器は，Ⅵ層から縄文時代中期から後期の土器が10点あまり，Ⅶ層からは縄文時代前期の曽畑式土器が20点あまり出土した。石錘はⅥ層から170点ほど，Ⅶ層からは120点ほどが出土した。

今回の調査により，近世の配石遺構と縄文時代前期から後期にかけての石錘を中心とする遺物を検出した。Ⅵ層・Ⅶ層の遺物包含層においては遺構は検出されなかった。検出した縄文土器はほとんど摩滅が無く良好な状態であった。遺物は大半を石錘が占め，土器やその他の遺物ははごく少量であった。土器その他の遺物にほとんど摩滅が見られないこと，層の粒子や堆積状況，また，遺跡の対岸には傾斜の急な山が迫り，逆に調査区は東にある傾斜の緩やかな山裾に位置することなどから，雪浦川が氾濫した際に周辺の遺物が調査区まで運ばれてきたものであろうと思われる。遺跡の中心は，調査区の南で，周囲より一段高くなる現在の民家が集中する砂丘上にあるのではないかと考えられる。

［調査担当：尾上・正林］（文責：尾上）

⑰遠竹（とおたけ）遺跡

所 在 地	北高来郡小長井町遠竹名	調査主体	小長井町教育委員会
調査原因	中山間総合整備事業	調査面積	54㎡
調査期間	平成10年9月28日～10月8日	処　　置	調査後工事
報 告 書	刊行予定なし		

立　地

遺跡近景

遠竹遺跡は遠竹小学校・遠竹公民館の北方の20,000㎡の範囲に所在する。「遠竹」の名称は古くから存在し，鎌倉期宝治元年の六波羅施行状に「伊佐早庄内遠竹村」の名がみえる。現在は丘陵地内に田・ミカン畑と住宅が点在する。調査地点は，遺跡の東南部周縁にあたり，標高15～40mである。今回は小長井東部地区中山間総合整備事業に先だって調査の必要性が指摘されてのものである。遠竹遺跡は小長井町の北東，佐賀県太良町と境を接する遠竹地区の標高30～40mの地点に立地する。東は有明海に面し，西は高原状の丘陵地が発達する。平地は少なく，本地区も丘陵地内にある。今回の調査地は丘陵からの土砂の移動と数度にわたる田畑の改変がおこなわれており，旧地形は丘陵間の谷間であったと推定される。

調　査

調査地の現状は小高い台地と台地の間に挟まれた谷間に階段状に形成された水田・畑地と休耕田からなる。水田・畑地は耕作中のため調査をおこなえず，休耕田は草を払ってからの調査となった。

試掘坑は圃場整備予定地の東から14箇所設定した。試掘坑の規模は2m×2mとし，合計56㎡を試掘した。遺物は耕作土層と黄褐色客土層から出土しているが，包含層は確認できなかった。試掘坑3・5・8・9は第1層は耕作土，第2層は鉄分などを含む黄褐色客土，第3層は青白色粘土からなる。第2層と第3層の間には現地で「豆盤」と呼ばれる2～3cmの小円礫からなる層が挟まれている。試掘坑4・6は表土・黄褐色客土層・径2～3mの岩盤からなる基盤層となる。試掘坑10・11は表土，耕作土を経て3層黄褐色土層，4層緑灰色粘土混じりシルト層，5層青灰色シルト混じり粘土層，6層礫層となる。試掘坑12は表土・黄褐色客土・黄色シルト層を挟んで径2～3mの岩盤からなる基盤層となる。試掘坑13・14は表土・客土・青白色粘土層となる。試掘坑15は表土・客土・黄褐色粘土層。試掘坑16は表土・客土は薄く，下は試掘坑範囲よりも巨大な岩盤となっていた。

今回の調査結果から判断すると，調査地付近は遠竹遺跡の中心部から外れていると思われる。ただ，周辺の分布調査によって遺跡の範囲が広範囲に広がることが明らかになった。

［調査担当：小松・尾上］（文責：尾上）

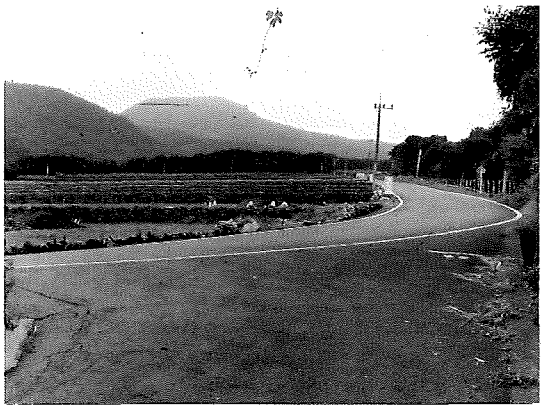
⑱ 西原（にしはら）遺跡

所 在 地	南高来郡瑞穂町西原開拓地	**調査主体**	長崎県教育庁文化課
調査原因	道路拡幅	**調査面積**	36㎡
調査期間	平成10年8月31日～9月8日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	未刊行		

立　地

西原遺跡は瑞穂町の南東部，標高250m～300mの丘陵上に立地する。雲仙山系の山麓面は浸食作用によって多くの河谷がみられるが，西原遺跡一帯も同様で，狭長な尾根と探い河谷が海岸に向かって放射状に延びる地形をなす。

今回の調査地は昭和50年代の区画整理によって著しく改変されている。旧地形は現在の県道部分を最高所とする，狭長な尾根筋にあたるものと推定される。



遺跡近景

調　査

西原遺跡は農林水産省の種苗育種センター一帯から雲仙コロニーにいたる250,000㎡の範囲に存在する。戦後の開拓時に開墾され，多くの縄文時代の遺物が採集されている。

調査地点は，遺跡の南西部周縁にあたり，標高270～280mである。県道54号線の拡幅工事にともなう分布調査によって調査の必要が指摘されたものである。

調査地の現状は上下二筆の畑と道路に沿った雑木林である。雑木林は事前に伐開してあったが，現状は傾斜地であり，遺構や包含層は存在しないと判断した。

試掘坑は二筆の畑に，北から4ヶ所設定した。試掘坑の規模は3m×3mとし，合計4箇所を試掘した。

上段の畑に設定した第1・第2試掘坑は，昭和50年代に実施された当地の区画整理事業の影響を免れ，プライマリーな土層堆積を保っていたが，遺物は流れ込みによるものであった。

下段の畑に設定した第3・第4試掘坑は，前述の区画整理により，地山（安山岩の風化土層）上が客土となっていた。遺物などの出土はなかった。

まとめ

今回の調査結果から判断すると，調査地付近は西原遺跡の中心部から外れていると思われる。

［調査担当：古門・小松］（文責：古門）

⑲ 大野原（おおのばる）遺跡

所 在 地	南高来郡有明町大三東大野名 東大野原戊1353－1，1354－1	**調査主体**	有明町教育委員会
		調査面積	1，200㎡
調査原因	有明町総合福祉センター建設	**処　　置**	調査後工事着工
調査期間	平成10年10月12日～12月18日		
報 告 書	刊行予定		

立　地

遺跡は，有明町中央部の扇状地に位置し，標高17～18mを測る。土地の利用状況は，黒色火山灰土が堆積しており主に人参・馬鈴薯を生産している。近年は，町役場周辺に文化・スポーツ関係の施設及び住宅地としての開発が進みつつある。

埋甕検出状況（有明町教育委員会撮影）

調　査

調査は，昭和42年の遺跡発見後，国見高校及び町教育委員会により数次に渡る調査を行っている。

今回の調査範囲は，総合福祉センター建設計画に伴って平成９年３月に実施した範囲確認調査に基づき本調査を実施している。

調査区は，国土座標により遺跡全体を200×200mのメッシュとし，南北軸をＡ～Ｊ，東西軸を１～10の記号番号を付した。調査地点は，20×20mのグリッドを１区画に遺物・遺構取上のためさらに５×５mの小グリッドを設定して調査を実施した。

基本層序は，１層耕作土・２層黒色土層（２ａ層・２ｂ層・２層）・３層黄褐色土層に分層される。遺構は３層上面に黒色土（２ｂ・２層）を覆土とする柱穴・溝等が確認された。３層中からは，集石及び埋甕２基を検出している。遺物は，２ａ層に近世の陶磁器，２ｂ層に土師器・須恵器・輸入陶磁器等の出土があり，２層・３層は縄文時代後期～晩期の土器・石器等の遺物が出土している。

まとめ

調査の結果，縄文時代後期の西平・三万田式土器に伴う遺構として埋甕及び集石を確認した。古代～中世では，柱穴・溝等の遺構を検出した。

以上につて記録措置を行い工事着工可とした。

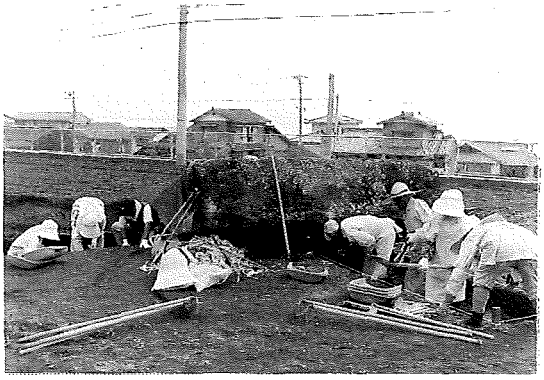
［調査担当：宮川・宇土　調査支援：町田］（文責：町田）

⑳ 景華園（けいかえん）遺跡

所 在 地	島原市中野町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	165㎡
調査期間	平成10年７月27日～９月４日	**処　　置**	調査後埋戻し
報 告 書	平成11年度刊行予定		

立地・調査

景華園遺跡は，有明海に突き出した島原半島の北西部に位置し，標高15～17mを測る台地上にある。雲仙山系を背後に控え，火山噴出物により周辺にもなだらかな舌状台地が形成され，縄文から弥生時代の遺跡が集中する地域でもある。景華園遺跡は元禄12年（1699）の島原藩日記『深溝世紀』に当時の藩主が別邸構築の際，大石を動かしたところ銅剣が出土したことが知られている。江戸以降，周辺は建築材としての粘土採掘が頻繁におこなわれ，昭和初期に銅矛が出土したり，昭和34年には採土の際に甕棺３基と銅剣・石剣・管玉等が出土しており，一躍景華園遺跡の名を世に広めた経緯がある。その後遺跡そのものの内容や範囲等について確認されていない状況が続いている。これらの状況を鑑み，今回の事業により遺跡の規模や現況の把握をおこなうことを目的として調査をおこなった。調査は１×５ｍのトレンチを基本に33箇所を設定しておこなった。その結果銅剣等が出土したという大石の下は既にかなりの削平をうけており，大石そのものもかなり移動していることが理解できた。その周辺も包含層は既に消滅しており，景華園遺跡の中心と思われる地域はほとんど原況をとどめていないことが判明した。ただし，表土には甕棺の破片や弥生中期後葉を中心とする土器が散在することからかなりの遺構があったことが想起される。遺跡の範囲を確認するため浅い谷部を挟んだ北側の台地にも調査区を設定した。調査範囲は，作物の収穫との関係で台地の西側に限定せざるを得なかったが一部に弥生中期後葉を中心とする遺物が確認され，やや限定された形ではあったが，包含層が残されている地域を特定できた。



調査風景

まとめ

以上のことから，景華園遺跡の中心部とされていた地域はほぼ消滅状態にあり，遺跡北側の台地にのみ包含層が一部残っていることが判明した。遺物は調査区全体に散布しており，遺物から弥生中期後葉を中心とし，北部九州系の土器や，肥後系の土器など多方面の遺物の流入があったことが理解できる内容となっている。

［調査担当：福田・大浦・宇土］（文責：福田）

㉑ 稗田原遺跡（ひえだばる）

所 在 地	島原市稗田町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	道路拡幅	**調査面積**	220㎡
調査期間	平成11年２月22日～３月９日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	平成11年度刊行予定		

立地・調査

稗田原遺跡は，島原市の北部に位置する東西約680m，南北400mの広大な遺跡で，標高は27～30mを測る。付近では，継続的に県道の改良工事が行われており，本遺跡にかかるものについても調査を行ってきた。今回は，試掘により遺物包含層が確認された遺跡の南端部について本調査を実施したものである。

調査風景

調査の結果，縄文時代の遺物包含層と古代の遺物を含む土石流路が確認された。縄文時代の包含層は，限られた範囲でしか確認されなかった。土石流路は，昨年の調査でも確認されており，位置的には延長した場所にあたる。遺物は初期貿易陶磁，土師器，須恵器などが出土した。

まとめ

今回の調査では，縄文時代の遺物包含層と古代の遺物を含む土石流路が確認され，付近では古くから生活が営まれていたことが改めて裏付けられた。これまでの調査から，本遺跡は複数の時代にまたがっており，場所により主体となる時代が異なるという複雑な遺跡であるといえる。その理由としては，雲仙岳の火山活動やそれに伴う土石流などの災害が関係していることが，徐々に明らかになりつつある。今後は周辺の遺跡も含めて，歴史的な推移を探っていく必要があろう。

［調査担当：川口・小松］（文責：川口）

㉒ 蒲河（かまが）遺跡

所 在 地	南高来郡有家町大字 中須川名字蓮ノ池地先	調査主体	長崎県教育委員会
		調査面積	36㎡
調査原因	有家漁港海岸保全工事	処　　置	調査後工事
調査期間	平成10年９月７日～10日		
報 告 書	刊行予定なし		

立地・調査

蒲河遺跡は縄文時代晩期を主体とした潮間帯に立地する遺跡である。今回は，工事範囲内に試掘坑を８か所（２×２ｍ・一部２×３ｍ）設定した。

前回の海岸保全工事の際の栗石が既に埋められており，排水管と思われるものも埋められていた。試掘坑からは，遺構・遺物包含層ともに確認されず，今回の調査地点における遺跡存在の可能性は低いといえる。

［調査担当：荒木・中村］（文責：中村）

調査区近景

㉓ 日野江（ひのえ）城跡

所 在 地	南高来郡北有馬町大字谷川名	調査主体	北有馬町教育委員会
調査原因	遺跡整備	調査面積	500㎡
調査期間	平成10年８月３日～９月30日	処　　置	現状保存
報 告 書	平成11年度刊行予定		

立　地

日野江城は島原鉄道北有馬駅北側の，大手川と浦口川に挟まれた低段丘上に占地する。標高78ｍの最頂部が本丸跡と推定され，そこから東側（二ノ丸方向）へは雛壇状に４段の造成が加えられながら緩やかに傾斜する。

調　査

平成7年より本格的な発掘が行われ，これまでに大手口周辺の約880㎡の調査が完了している。検出された主な遺構としては，本丸方向へ直線的に延びる全長約100ｍの階段遺構があり，16世紀後半から17世紀前半にかけての国産・輸入陶磁器類，瓦，鉄製品や石製品が多数出土している。平成10年度の調査は，二ノ丸にある乱積み石垣の北端で実施され，調査の結果，切石を整然と積み上げた石垣遺構と，それに付随する特殊な階段遺構，金箔瓦の出土が確認された。

日野江城跡出土金箔瓦

切石は軟質の溶結凝灰岩をノミ状の工具で丁寧に削りだしたもので，これまで国内では知られていない全く新しい石積み技術が用いられている。階段は踏石の石材として五輪塔や宝篋印塔を数多く用いているのが特異である。階段を上ったところの切石石列周辺からは金箔瓦が出土している。この瓦は鳥伏間（とりぶすま）とよばれ，鬼瓦の上に葺かれるものである。瓦当面の中心に巴文と周囲に17個の珠文が配され，金箔は瓦当面全面に貼られていた。

まとめ

切石を用いた石垣構築技術は琉球のグスクでも見られ，東アジア全体を視野に入れて再検討する必要があろう。城郭建築史から見ても，これまでの常識を覆す画期的な発見といえる。

踏石に石塔を用いた階段は国内に事例はあるものの，極めて希有なことである。石塔を棄却してまで踏石に利用することには，キリシタン大名有馬晴信ならではの政治的・宗教的作為が窺える。

金箔瓦の出土は全国で30余例，九州では4例目にあたる。いずれも豊臣政権下において重要な位置を占める城郭にのみ使用が許されており，当時有馬氏が秀吉と密接な関係にあったことを示している。石垣，階段，金箔瓦の採用は，日野江城が織豊系城郭の影響を色濃く受けたことの証左といえよう。

［調査担当：木村（北有馬町教育委員会）　調査支援：川道］（文責：本田）

㉔ 峰（みね）城跡

所 在 地	南高来郡南串山町甲3446	**調査主体**	南串山町教育委員会
調査原因	農業基盤整備	**調査面積**	150㎡
調査期間	平成10年12月７日～12月16日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	平成11年度刊行予定		

立　地

南串山町の北東部の標高140ｍに位置する。東は直線距離600ｍほどで小浜町に接する。標高200ｍほどの丘陵の北側に舌状に張り出す緩斜面に立地する。集落は丘陵張り出し部分を風よけとして丘陵の東側に密集する。

遺跡の周辺は一面のレタス畑で，年に数回の収穫をおこなっている。地味も肥え，優秀な農地を形成している。

遺構検出状況

調　査

調査地は南高来郡南串山町樫峰に所在し，樫峰地区の区画整理事業にともなう調査として実施した。当地は峰城跡として遺跡地図に掲載されており，埋蔵文化財包蔵地カードによると『日本城郭体系』からの引用により「有馬氏の家臣である峰五郎左衛門の居城と伝えられる。」と記している。

平成10年７月30日から８月７日にかけて範囲確認調査を実施したところ，その際縄文晩期の包含層ならびに近世の柱穴を検出した。そのため町との協議をおこない，道路部分の本調査を実施することとした。本調査は，同年12月７日（月）から同月16日（水）にかけて実施した。調査面積は150㎡である。遺構としては，縄文時代晩期後葉（山の寺式土器の段階）の土壙，近世中期以降の柱穴，畑の畝跡などを検出した。

まとめ

調査の結果，峰城跡の遺構や遺物は確認できなかった。

［調査担当：町田・古門・中村］（文責：古門）

㉕ 妙見床遺跡（みょうけんどこ）

所 在 地	南高来郡南串山町丙8544番地２外	調査主体	南串山町教育委員会
調査原因	県営畑地帯総合整備	調査面積	116㎡
調査期間	平成11年１月11日～１月26日	処　　置	事業計画協議中
報 告 書	未刊行		

立　地

当該地は，県営畑地帯総合整備に伴う分布調査を平成10年６月22日に実施し，旧石器時代から近世にかけての遺物が散布する状況を確認した地区である。

調査対象地は，南串山町南東部の標高140～180ｍの盆地状の地形にある。現地の土地利用の現況は，馬鈴薯とレタスの生産を年間を通じて行っている。

遺跡遠景

調　査

調査は，分布調査の結果に基づき遺物採集した畑地の30箇所（２×２ｍ）を設定し，１区（１～17）・２区（18～24と28・29）・３区（25～27）に地区分割し調査を行った。ただし，１箇所については地主の承諾を得られず29箇所について実施した。

土層は，29箇所調査の内25箇所は遺物包含層が流失していたが，１区10・11及び２区21・22において黄色火山灰土と黒色火山灰土が存在し，１区10・11からは遺物等を確認できなかったものの，２区の21・22は縄文～弥生時代の遺物が出土し，黄色火山灰土上部には暗黄黒色土が堆積し中世の遺物が出土している。

遺構は，２区21・22において縄文～弥生時代の住居跡を確認した。

遺物は，縄文～弥生時代の石器・土器及び中近世の土師器・陶磁器類がパンコンテナー１箱分出土している。

まとめ

調査の結果，２区21・22において縄文時代から中近世の包含層と遺構を確認しており，調査区の周辺に遺物・遺構等が包蔵されている可能性があり，工事着工以前に遺跡保存についての協議を行う必要が認められた。

［調査担当：町田・荒木］（文責：町田）

Ⅲ　平成10年度 長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	世			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	98条の2	
1	大上戸川条里跡	大村市						○				B	○						
2	鏡山遺跡	大村市	○								d	B	○					○	
3	黒丸遺跡	大村市			○	○	○	○	○			D	○						
4	刈萱遺跡	松浦市							○			C	○						
5	釜敷山遺跡	西海町							○			A	○			○			
6	権現脇遺跡	深江町		○								E				○			
7	草ノ尾遺跡	吉井町		○								D		○					
8	矢乏遺跡	国見町				○	○	○			d	E				○		○	○
9	石原遺跡	国見町				○	○	○			d	E				○		○	○
10	権現脇遺跡	深江町		○								D		○					
11	権現脇遺跡	深江町		○								D		○					
12	平野遺跡	福島町		○								A		○					
13	鏡山遺跡	大村市	○									D	○						
14	辻第3遺跡	平戸市		○								C	○						○
15	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
16	矢上城跡	長崎市							○			A	○						
17	深堀遺跡	長崎市		○	○	○	○	○	○	○		C	○						
18	興触遺跡	芦辺町	○	○	○	○					d	A		○				○	
19	権現脇遺跡	島原市		○								D		○					
20	権現脇遺跡	島原市		○								D		○					
21	稗田原遺跡	島原市		○	○	○	○	○	○	○	d	A		○				○	
22	恵比須山西遺跡	峰町			○							E				○			○
23	東上遺跡	長崎市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
24	亀岡城跡	平戸市								○		D		○					○
25	栢ノ木遺跡	松浦市			○							A	○						○
26	鏡山遺跡	大村市	○									D	○						
27	鏡山遺跡	大村市	○									D	○						
28	魚ノ目城跡遺跡	新魚目町							○			C	○						
29	富の原遺跡	大村市		○	○				○			A	○						
30	原の辻遺跡	石田町			○		○	○				D	○						
31	里田原遺跡	田平町		○	○				○			A	○						○
32	上原遺跡	諫早市			○						d	A		○				○	○
33	上原遺跡	諫早市			○						d	A	○					○	○
34	富の原遺跡	大村市			○						d	A	○				○		
35	原の辻遺跡	芦辺町			○							D	○						
36	狩立遺跡	田平町			○	○			○		d	E				○		○	○
37	クワバル古墳	豊玉町				○					d							○	
38	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d	B						○	○
39	里田原遺跡	田平町		○	○				○		d	A						○	○
40	小路口遺跡	大村市		○								C		○					
41	姫神社遺跡	松浦市		○							d	B						○	○
42	波佐見町川内郷付近	波佐見町																	○
43	天神塚遺跡	田平町			○				○		d							○	○
44	大宝遺跡	郷ノ浦町					○	○	○			A		○					○
45	大宝遺跡	郷ノ浦町					○	○	○		d	A		○				○	
46	岩名遺跡	大村市			○						d	A	○					○	○
47	大上戸川条里跡	大村市					○	○				D	○						
48	西原遺跡	瑞穂町		○								A		○					
49	礫石原遺跡	島原市		○								A	○						
50	帯取遺跡	大村市		○							d	A	○					○	○
51	佃遺跡	国見町			○						d	A		○				○	○
52	矢房遺跡	国見町				○	○	○	○		d	C		○				○	

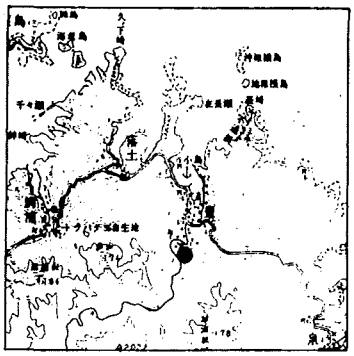
No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	世			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	98条の2	
53	石原遺跡	国見町				○	○	○	○		d	A		○				○	
54	蒲河遺跡	有家町		○								A		○					
55	唐人屋敷跡	長崎市								○	d	A		○				○	
56	景華園遺跡	島原市			○														○
57	茂木港外遺跡	長崎市								○	a						○		
58	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		d			○				○	○
59	原の辻遺跡	芦辺町			○				○			A		○					
60	闘繰遺跡	芦辺町			○						d	A		○				○	○
61	峰城跡	南串山							○		d	A		○				○	○
62	古里A遺跡	佐世保市	○	○							d							○	
63	古里B遺跡	佐世保市	○	○							d							○	
64	出島和蘭商館跡	長崎市								○		C		○					
65	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○		○			A		○					
66	丸尾遺跡	新魚目町		○								D		○					
67	那須加美金子神社遺跡	上対馬町				○						C		○					
68	勝本城跡	勝本町								○		C		○					
69	西中山遺跡	平戸市	○	○								C	○						
70	深堀遺跡	長崎市		○	○				○			C	○						
71	畝刈の浜遺跡	長崎市		○								D	○						
72	古賀島4遺跡	大村市		○						○		D	○						
73	稗田原遺跡	島原市		○	○						d	A		○				○	○
74	芦見遺跡	上対馬町				○			○			C		○					
75	壱岐国安国寺跡	芦辺町							○			A	○						○
76	石田城跡	福江市								○		A		○					
77	田中遺跡	深江町		○								C		○					
78	古田B遺跡	小佐々町		○								D		○					
79	東上遺跡	長崎市		○	○					○		C		○					
80	清水遺跡	大瀬戸町		○							d	A		○				○	○
81	浜田遺跡	諫早市		○							d	A		○				○	
82	桜町遺跡	長崎市								○		A	○						
83	豊大畑遺跡	上対馬町			○	○					d							○	○
84	黒丸遺跡	大村市		○								C		○					
85	桜町遺跡	長崎市								○		C	○						
86	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					d							○	○
87	風観岳支石墓群	諫早市		○							d							○	
88	三重番所跡	長崎市								○		C		○					
89	三重台場跡	長崎市								○		C		○					
90	木宮遺跡	佐世保市		○	○							C	○						
91	長崎奉行所跡	長崎市								○		D	○						
92	宮の浦B遺跡	平戸市		○								C	○						
93	浦小川遺跡	平戸市			○							C	○						
94	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○			D	○						
95	双六古墳	勝本町				○					b							○	
96	桜町遺跡	長崎市								○	d						○		
97	遠竹遺跡	小長井町		○								A		○					
98	陣ノ内城跡	松浦市							○		d							○	○
99	竹辺遺跡	佐世保市		○	○							C	○						
100	蔦木遺跡	大村市			○	○					d	A	○				○		○
101	弘安の役瀬戸浦古戦場	芦辺町							○			D		○					
102	西中戸遺跡	崎戸町		○	○	○						D		○					
103	黒木城跡	石田町							○			D					○		
104	横山遺跡	長崎市			○							C		○					
105	帯取遺跡	大村市			○	○						D	○						
106	中島遺跡	福江市		○							a						○		○

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	世			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	98条の2	
107	妙泉寺古墳群	芦辺町				○					d							○	○
108	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
109	原の辻遺跡	石田町			○						d							○	○
110	山中遺跡	郷ノ浦町			○						c							○	
111	興触川上遺跡	芦辺町							○			E				○			
112	興触川上遺跡	芦辺町						○	○		d	A		○				○	○
113	城ノ越城跡	松浦市								○		D	○						
114	戸ノ本崎遺跡	松浦市	○	○								C	○						
115	寺ノ尾C遺跡	松浦市	○								d	A	○					○	○
116	梶谷城跡	松浦市							○			C	○						
117	風観岳支石墓群	大村市		○							d							○	○
118	栢ノ木遺跡	松浦市		○	○							D	○						
119	段ノ上遺跡	松浦市	○	○	○	○						D	○						
120	戸町番所跡	長崎市		○	○					○		C	○						
121	大野原遺跡	有明町		○	○						d							○	○
122	田口高野遺跡	松浦市	○	○								D	○						
123	城岳城跡	奈留町							○			A	○						○
124	城ヶ岳城跡遺跡	宇久町							○			C		○					
125	沖城跡	諫早市							○	○		A		○					
126	嶽ノ下A遺跡	大村市		○								D	○						
127	興触川上遺跡	芦辺町						○	○			A		○					○
128	小江遺跡	長崎市		○	○							C	○						
129	山中遺跡	郷ノ浦町			○						c								○
130	権現脇遺跡	島原市		○								D							
131	権現脇遺跡	島原市		○								D							
132	清水遺跡	石田町	○			○			○			E				○			
133	権現脇遺跡	深江町		○								D							
134	富の原遺跡	大村市			○							A							
135	田中遺跡	深江町		○								D							
136	金田城跡	美津島町				○													○
137	深堀遺跡	長崎市		○	○	○						C		○					
138	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
139	長畑馬場遺跡	大島村	○	○	○						d							○	○
140	千葉卜枕屋敷跡	大村市								○	d	A	○					○	
141	御館跡	平戸市								○	d	A		○				○	○
142	江ノ島遺跡	崎戸町		○	○							D		○					
143	興触遺跡	芦辺町		○			○	○	○			C		○					
144	清水遺跡	大瀬戸町		○							d							○	
145	上八竜A遺跡	大村市		○								D	○						
146	深堀遺跡	長崎市		○	○	○			○		d							○	
147	天久保遺跡	西海町		○								C		○					
148	白岳第一遺跡	平戸市		○								C		○					
149	赤崎山第二遺跡	平戸市		○								C		○					
150	須草浜遺跡	平戸市		○	○							C		○					
151	東植松遺跡	平戸市		○								C	○						
152	東植松遺跡	平戸市		○								C	○						
153	野岳遺跡	大村市	○	○								C		○					
154	石田城跡	福江市								○	d	A		○				○	
155	長葉山窯跡	佐世保市								○	b							○	○
156	根引池遺跡	江迎町	○	○							d							○	○
157	深堀遺跡	長崎市		○	○	○			○			C		○					
158	皿山役所跡	波佐見町								○		E						○	
159	石田城跡	福江市								○	d							○	○
160	上在所遺跡	上対馬町			○	○						C		○					
161	高火頭遺跡	西海町			○							E				○			

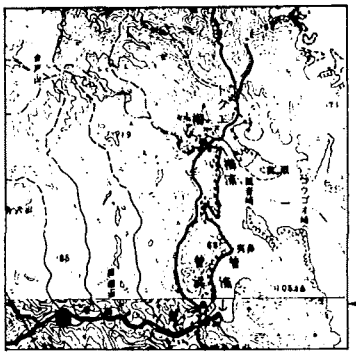
No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届け		遺跡発見届け		発掘調査届け		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	世			57条の2	57条の3	57条の5	57条の6	57条	98条の2	
162	西中山遺跡	平戸市			○						d							○	○
163	原城跡	南有馬町							○	○									○
164	原の辻遺跡	石田町	○		○							D		○					
165	稗田原遺跡	島原市		○	○					○		A		○					
166	釘原遺跡	島原市			○	○					d							○	
167	十園遺跡	国見町			○	○	○	○	○		d							○	○
168	富の原遺跡	大村市			○						d	A	○					○	
169	原の辻遺跡	芦辺町			○							D	○						
170	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d							○	○
171	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		C		○					
172	山田条里跡	吾妻町					○					A		○					
173	山田条里跡	吾妻町					○					A		○					
174	大似田堤遺跡	大村市		○								D	○						
175	妙見床遺跡	南串山町		○	○				○	○	d	E				○		○	○
176	金石城跡	厳原町								○									○
177	猪ノ瀬遺跡	国見町		○							d					○		○	○
178	小船遺跡	松浦市	○						○		d							○	○
179	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
180	山田条里跡	吾妻町					○				d							○	○
181	上八竜A遺跡	大村市		○								D	○						
182	栢ノ木遺跡	松浦市		○	○				○			D		○					
183	日之嶽城跡	平戸市							○			C		○					
184	原の辻遺跡	芦辺町			○														○
185	古城跡	長崎市							○	○	d							○	
186	栢ノ木遺跡	松浦市		○	○				○			D		○					
187	カラカミ遺跡	勝本町			○							A		○					
188	牛神遺跡	勝本町			○							A		○					
189	国柳遺跡	勝本町			○							A		○					
190	蔦木遺跡	大村市			○						d	A	○					○	
191	東上遺跡	長崎市		○	○					○		C		○					
192	緑ヶ丘遺跡	平戸市	○	○	○						d							○	○
193	原の辻遺跡	石田町	○		○							C		○					
194	堂の本遺跡	平戸市		○								C	○						
195	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	A	○					○	
196	現川焼陶窯跡	長崎市								○	b							○	
197	東上遺跡	長崎市		○	○					○		C		○					
198	六ノ坪遺跡	国見町			○						b							○	
199	小中野A遺跡	国見町			○	○	○	○			b							○	○
200	小中野B遺跡	国見町			○	○	○	○			b							○	○
201	今津遺跡	大村市		○							d	B	○					○	
202	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
203	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
204	天水遺跡	石田町			○				○	○	d							○	○
205	里田原遺跡	田平町			○							A	○						

・一覧表の通し番号は，文書の届け出順を基準とする。
・時代については，旧石器時代→旧，縄文時代→縄，弥生時代→弥，古墳時代→古，奈良時代→奈，平安時代→平，鎌倉・室町・戦国時代→中，江戸時代→世としている。
・原因については，a→学術調査，b→遺跡整備，c→自然崩壊，d→開発事業に伴う調査を示す。
・結果については，A→発掘調査，B→範囲確認調査，C→工事立会，D→慎重工事，E→発見届，F→厳重注意

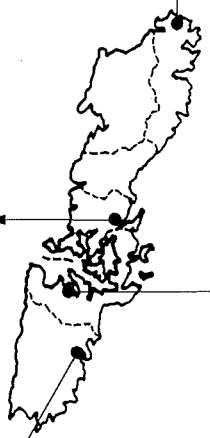
Ⅳ　平成10年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）①



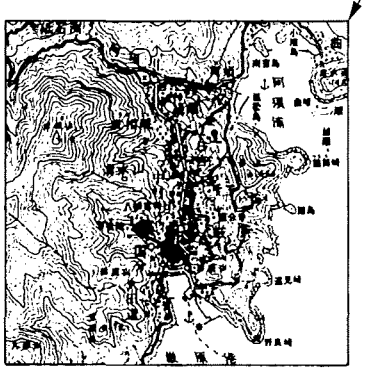
①豊大畑遺跡（上対馬町）



②クワバル古墳（豊玉町）



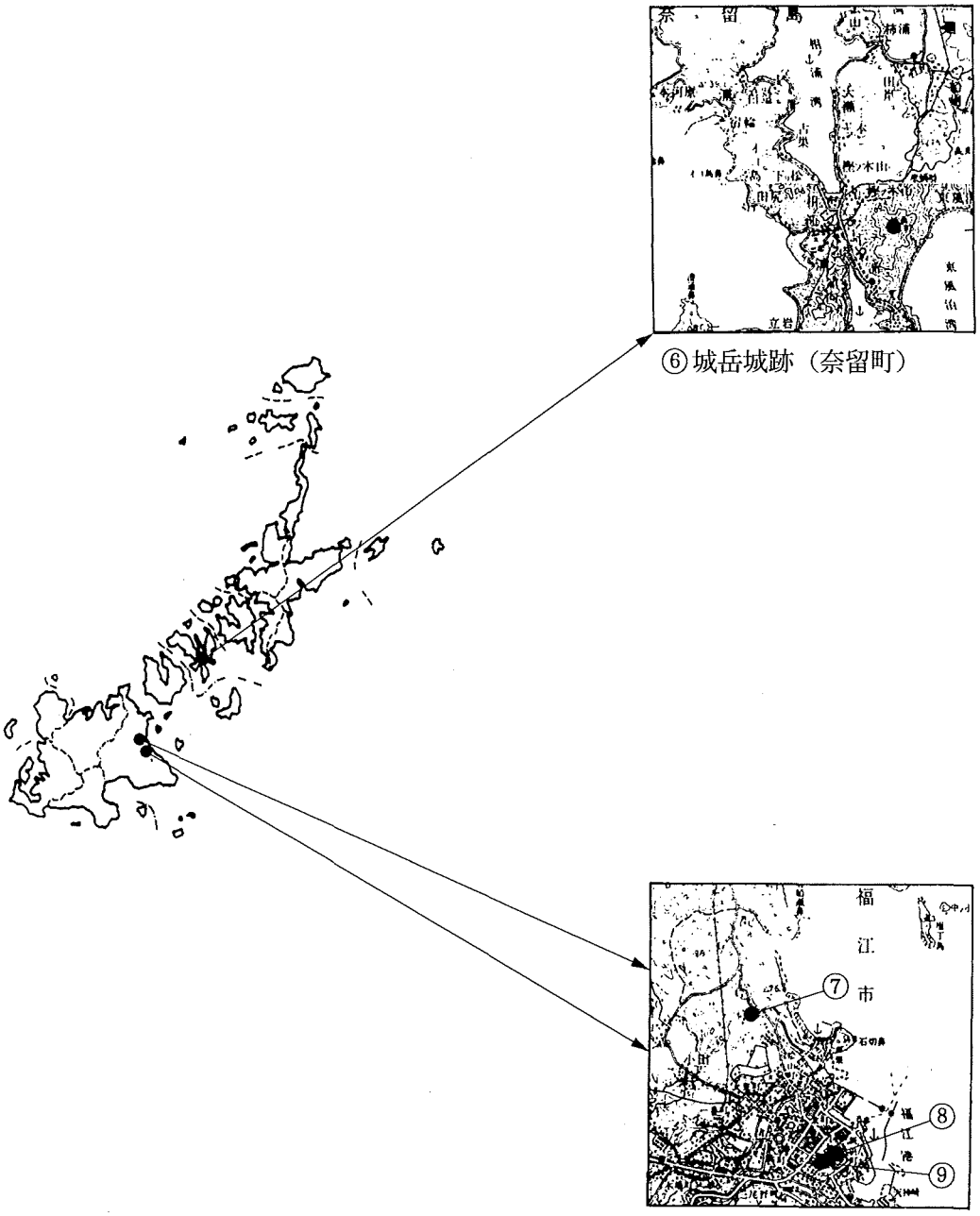
④金田城跡（美津島町）



③金石城跡（厳原町）

⑤妙泉寺古墳群（芦辺町）

平成10年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）②



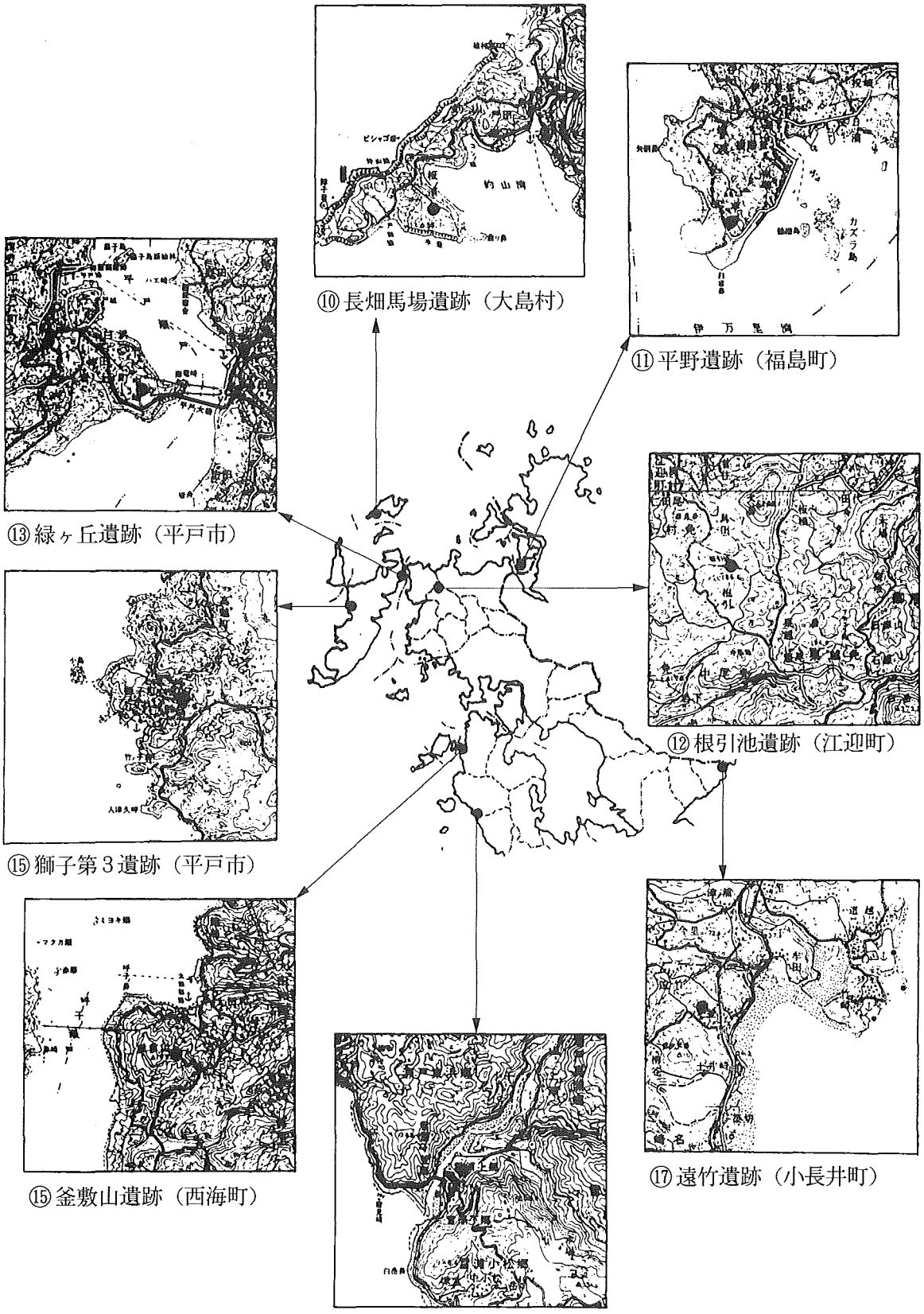
⑥城岳城跡（奈留町）

⑦曲坂遺跡（福江市）

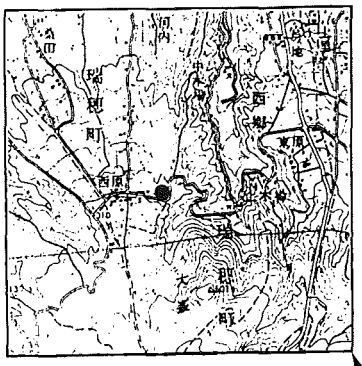
⑧石田城跡（福江市）

⑨石田城跡（福江市）

平成10年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）③

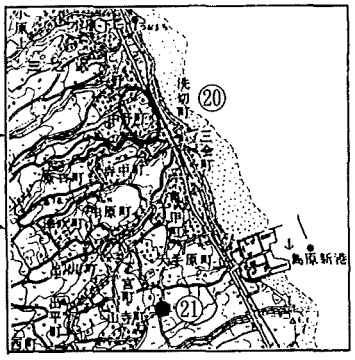


平成10年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）④



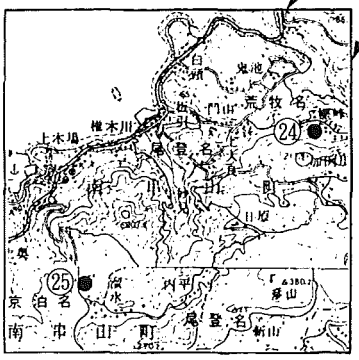
⑱西原遺跡（瑞穂町）

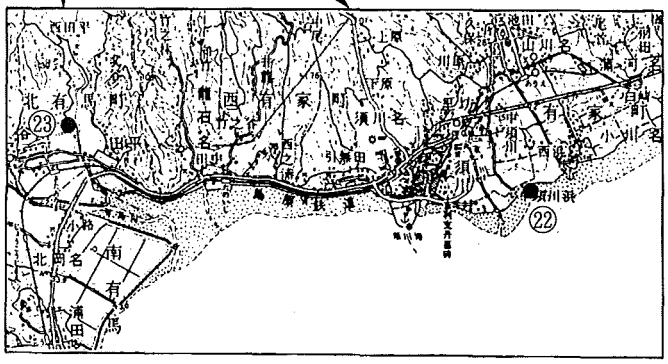
⑲大野原遺跡（有明町）



⑳景華園遺跡（島原市）

㉑稗田原遺跡（島原市）





㉔峰城跡（南串山町）

㉕妙見床遺跡（南串山町）

㉓日野江城跡（北有馬町）　㉒蒲河遺跡（有家町）

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報 7
副書名	
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査報告書
シリーズ番号	第155集
編著者名	山口 浩司
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850-8570 長崎県長崎市江戸町2-13 TEL 095-824-1111
発行年月日	西暦2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査機関	調査面積 m²	調査原因
豊大畑遺跡 など 25遺跡	長崎県 上県郡 上対馬町など							

長崎県文化財調査報告書 第155集

長崎県埋蔵文化財調査年報7

(平成10年度調査分)

平成12年3月31日

発行 長崎県教育委員会
長崎市江戸町2-13

印刷 イナサプリント